特207
915

0057311000

0057311-000

特２０７－９１５

入営除隊式辞挨拶集

陸軍壮丁教育会

昭和１０

AJF

特207
975

除隊入營

式辭挨拶集

陸軍壯丁教育會發行

昭和十七年
陸軍壯丁教育會

自序

「舌は劍よりも强し」と言ふ。

雄辯の力は劍の力よりも强い。辯舌に巧みなものゝ力は劍を把つて鬪ふよりも更に强いと言はれてゐる。

本書は初心の人々に壇上の人となる心得から說き起して、雄辯のスタート及成功演說の秘訣に到るまで、主として軍人に關係ある事項のみにつき、數十項に分ちて時と場合とに應じ、自由自在に雄辯を揮ひ得るやうその要訣を懇切且つ叮嚀に說明し、以て劍よりも强き舌の所有者となさしむるやう記述した。

而も尙ほ數十の活きた範例を揭げて、壇上に立たんとする人の用に供し、更に諸名士の式辭、

挨拶をも掲載してその参考に資した。されば本書は其の量に於て甚だ小なる感はあるが、苟も軍人として要すべき式辭、挨拶は細大漏らさず述べてあるから、質に於て頗る大なるものと云ふ自く、本書を活用するとき、必ずや警句名言口を衝いて迸り、聽者をして恍惚たらしめ、自らその雄辯に驚嘆するであらふことを信ずる。

昭和九年一月目白文化村の草庵にて

著者誌

目次

第一章 緒言……一
第二章 式辭挨拶の一般的智識……二
第一節 準備……二
第二節 態度……五
第三節 音聲の抑揚……七
第四節 ポース……八
第五節 登壇する時の態度……九
第六節 壇上の態度……一〇
第七節 眼の配り方……一二

第八節　手振法……一三
第九節　卓の叩き方……一五
第十節　水の呑み方……一六
第十一節　降壇の態度……一六
第三章　熱心と誠實……一七
第四章　權威と趣味……一八
第五章　剛毅の氣性……二〇
第六章　聽衆の心を捕ふ秘訣……二二
第七章　厭氣を起させぬこと……二三
第八章　彌次に就て……二四
第九章　雄辯の秘訣……二五

第十章　式辭挨拶例……二七
徵兵檢査合格の祝宴辭……二七
徵兵檢査合格祝宴の答辭……二九
同上（志願兵の場合の例）……三〇
入營兵送別會の辭……三二
入營兵士送別會の答辭……三四
海軍兵入團送別會の辭……三六
海軍兵入團送別會の答辭……三九
幹部候補生送別會の辭（其一）……四〇
同上（其二）……四一
幹部候補生送別會の答辭……四四

徵兵合格者祝宴會謝辭例……四六
入營兵送別會主催の代表者送別辭例……四七
入營兵送別祝宴列席者の挨拶……四九
送別會祝宴志願兵の答辭……五一
滿期除隊兵歡迎會有志の挨拶……五三
滿期除隊兵歡迎會祝辭……五五
滿期除隊兵在鄕軍人團代表の祝辭……五六
滿期除隊兵歡迎會の答辭(代表者側)……五八
滿期除隊兵歡迎會の答辭……六〇
凱旋兵歡迎會の祝辭……六二
凱旋兵歡迎會開會の辭(主催者代表側)……六三

凱旋兵歡迎會の答辭……六五
戰死者を弔ふの辭(文書)……六六
同　上(其二例)……六八
士官歡迎會有志者の祝辭……六九
同　上(例其二、文書)……七一
在鄕軍人分會創立記念日祝辭……七三
同　上　分會長祝辭……七四
在鄕軍人分會入會の挨拶……七六
在鄕軍人分會役員就任の挨拶……七七
在鄕軍人分會長就任の挨拶……七八
在鄕軍人分會役員辭任の挨拶……八〇

在郷軍人分會長辭任の挨拶……八一
忠魂碑竣工式の式辭……八三
同　上（例其二、文書）……八五
第十一章　名士の式辭挨拶例……八七
内閣總理大臣式辭……八七
宮内大臣式辭……八九
内務大臣式辭……九〇
文部大臣式辭……九二
陸軍大臣式辭……九四
海軍大臣式辭……九五
模範演説例……九七

終

入營 除隊 式辭挨拶集

第一章　緒言

眼に見たこと、耳に聞えたこと、心に思つたこと、己の考へたこと、すべて自己の抱負、意見といふやうなものを、他の人の心に移す方法に二つある。その一つは手から眼に入れる方法で、文章、繪畫、動作などがこれに屬し、一つは口から耳に移す方法で、言語が即ちこれに屬する。

而してこの言語は、人間生活の進歩、發達につれて、種々の樣式に變化、向上し、その一樣式たる式辭、挨拶、演説の如きもの、現代人の生活には最早一日も缺くことの出來ぬものとなつて來た。本書は即ちこの式辭、挨拶、演説の基礎的要素を涵養するためのものである

が、總じて千偏一律になり易い式辭、挨拶の類として、與へられた短時間内に、よく聽衆の頭腦深く滲み込ませるには、如何なる方法によつて述ぶべきか、即ち或る時は喜びを、或る時は悲しみを、また或る時は人の美を揚げ善事を彰し、以て己れの思想を聽衆に訴へ、聽く者をして「同感」の叫びを發せしむるには如何にすべきか、これは蓋し壇上に起たんとする者の第一に感ずる處であらふ。

依つて式辭、挨拶等幾多の例を述ぶる前に式辭、挨拶を述ぶるに關して心得ねばならぬ一般的要素を、簡明に記述し、讀者をして自由自在に應用し得るやうにしよふ。

第二章　式辭挨拶の一般的智識

第一節　準備

壇上の人たらんとする者は、何人も先づ、如何なる場合でも、周到な準備と、充分な練習が必要である。

曾つて機智縱横にほどばしり、常に準備なき演說を以て聽衆を醉はしめた有名な雄辯家シエリダンでさへ、其の死後には多くの演說草稿がその手文庫に遺してあつたといふことである。

總べて堂々たる長演說でも、單なる一席の挨拶でも、其の準備と練習とに要する苦心は同じことで、グラツトストンは僅か二、三十分間の演說の準備にも四、五日間を費したと傳へられてゐる。斯樣にその内容に、またその形式に苦心をするでなくては所詮聽衆をして感同せしむることは不可能である。

特に式辭、挨拶の如きものは通常短時間に終らしむべきもので、一時間二時間に亘る長演說ではないのであるから、『ペン、イズ、マスター、ザン、スワードー』（ペンは劍よりも強い）といふ感念を短時間に聽衆に與へるには、それに相當した準備と、練習とがなくては

ならない。

然るに世間には、往々にして

『何、壇上に立ちさへすれば……』

とか、また

『これ位のことならキツト好く遣つて見せる』

など丶言つて、少しの準備もしなければ、練習もしない者があるが、これは大間違ひで

そういふ者の中には『或は私は壇上に立つたなら、斯ふ言ふことを述べてやらふ』とか『あ

ふいふことを言つてやらふ』など思つて、それをたゞ自分の腹の底にだけ深く秘めてゐるも

のもあるであらふが、さういふ人が扨て壇上に立つと、非常に狼狽して、多くはその言はん

とするところの十分の一も言ひ得ずして、降壇するやうになつてしまふものである。よし幸ひ

に言はんとするところを言ひ得たとしても、それは丁度尋常一年の子供がオテラノヤネニ、

ハガト三羽トマツテヰマス式のものになつてしまつて、聽衆に倦怠と、嘲弄と、反感を買ふ

だけである。

されば演壇上の人たらんとするものは、如何なる場合でも、その發表しようとする式辭な

り挨拶なりについて、充分な準備と練習を忘れてはならない。

第二節　態度

演壇を前に、幾百幾千の聽衆の焦點に立つた時に、聽衆をして

『何だか生意氣相な男だ』

とか

『どうやら喋舌そうもない男だ』

とか言つたやうな嫌厭の情を起さしむるも、輕蔑の眼を向けらるゝのも、將亦敬服、感嘆措

く能はさらしめ、幾百幾千の聽衆に咳一つさせないまでに場内を威壓するのも、一に辯士の態度如何によるものである。

されば壇上の人となつた時、己れの態度を整へるといふことは、最も注意すべきことである。

例へば、餘りに傲慢不遜で、人を人とも思はぬ態度とか、輕卒浮薄でオチツキのない態度とか、その他登壇するときに聽衆の笑ひを招くやうなこと、例へば演壇に躓いて前にのめり相になつたり、尻餅をついたり、フイと後ろを振り返つて見たりするやうなことがあると、多くの場合その演說は失敗に終るものである。

特に注意すべきはこの浮薄な態度である。態度が浮薄であると、論旨も思想も聽衆には一向に徹底することなく、丁度雀が轉る位にしか感じないものであるから、充分愼重な態度でなくてはならない。

第三節　音聲の抑揚

式辭、挨拶に於て最も必要なことは音聲の抑揚である。或る意味から言つて式辭、挨拶の成功不成功の岐るゝ處は、音聲の抑揚如何に在ると言つても過言でないとされてゐる

如何に態度堂々として紳士の風彩を備へてゐても、その音聲に抑揚がなく、平々坦々尋常一年の子供が讀本を讀むやうであつたならその式辭、挨拶は全く失敗に終る外はないのである。

これと反對に、よく音聲の抑揚を利用し得るならば、幾百幾千の聽衆も動かすことは恰も我が手足を動かすが如くで、實に自由自在なりと言ふことが出來る。然らばこの音聲の抑揚とは如何なることであるか、それは外でもない音聲と話題の內容とを常に一致せしむることである。言葉を換へて言へば話題の悲壯なところは悲壯な音聲を用ひ、喜びの時は喜びの音聲を發するといふやうにするのである。緊張せねばならぬ場合にダラゲた音聲を出せば聽衆

は緊張せぬのみか却つて嘲笑して了ふであらふ。

さらばと言つて一語一語、すべてこれ内容にのみ囚はれてしまつては演説は出來ないから常にその邊の呼吸をのみ込み、大體をその内容に一致するやうにするがよいのである。それは丁度音楽家が音楽を奏すると同様で、或は高く、或は低く、泣くが如く、訴ふるが如く、咽ぶが如く、笑ふが如、千變極まりなき要するのである。斯くあつてこそ聽衆をして或は醉ひるが如く、或は眠るが如く、或は共に喜び、共に泣き、たゞ〳〵恍惚の境に入らしむることが出來るのである。

第四節　ポーズ

ポースとは間のことである。式辭、挨拶、演説などにはその主旨を理解せしむるために或る程度の間を作ることは必要である。ノベツ幕なしに喋舌り通しでは聽衆の心を動かすことは出來ない。そこで或る場合には故意に話を止めて暫らく間を置くことが必要である。これは聽衆に自分の話の内容を理解させると同時に、式辭挨拶に權威を持たせる極めて大切な方法である。

例へば……何々ではないか……

と言つたやうな場合、すぐその後を言つてしまふと、聽衆はまだそれを理解しない内に、次の言葉が來てしまふので、折角、何々ではないかと聽衆に呼びかけて、その心に喰ひ入らふとしても駄目になつてしまふものである。故にかゝる場合には聽衆がなる程と理解し、同感するまで次の言葉を待つが良いのである。この次の言葉をまつ間これは式辭、挨拶等に特に必要なことであるから、注意を要する。

登壇する時の態度は、聽衆の心自己に引き付ける最初の一歩であるから、充分な注意が必要である。この時の態度が惡くて聽衆の嘲笑を買つたり、輕蔑されたりするようであれば、その式辭挨拶は如何に堂々たるものでも半ばその効果は失れてしまふであらふ。そこでどんな態度をとつたら良いかといふと、一言にして現はせば『何の淀みもない、自然の態度』といふのがよいのである。

體を直立させ、兩手を垂下して動搖せしめず、それかと言つて除り凝らず、固まらず、如何にも自然のまゝなる態度を以て、除々そして登壇すべきである。若し階段などを昇るやうな場合は、頭を少し前に垂れ、體を少々前にかゞませるやうにするがよい。

第六節　壇上の態度

いよ〳〵登壇して机の前に立つた態度には大體二通りある。その一は中央に直立し正面に向ふのであり、その一は机の左方なり右方になり少し離れて直立し、机の左又は右を見て聽衆を正面に視るの態度である

この態度は、その何れを採るも良いが、たゞこの際注意すべきことは、沈着である。登壇するや否やイの一番に机を叩いて諸君ッ！などゝやるのは大の禁物である。これは沈着を缺いた態度で、一種の狼狽とも見るべきものである。

机を前にして立つたなら、先づ發言に先だつて、充分、精細に聽衆を見定めることが必要である。しかしこの聽衆の見定めといふことは初心者には却々出來ないことだ、この見定めが出來るやうになれば、そは既に成功の第一歩に入つたと言つてよい。そはともかくとして諸君は壇上に立つたなら必ず沈着に、悠々と聽衆を見定め然る後に徐ろに發言するといふやうにすることを忘れてはならない。

第七節　眼の配り

眼の配り方、これも壇上に於ける重要な動作の一つである。前項に述べた聽衆を見定めるといふことも亦眼の配り方の一つである。古來、眼は口ほどに物を言ふと言はれてゐるほど眼の配り方といふものは言語を助ける重要な動作である。

この眼の配り方は、どうするのが一番良いかといふと、音聲の抑揚と共に、恰も自分が自分の語つてゐるものを見詰めると言つた風にするのが一番良い。

例へば挨拶などが高潮に達して來た時、

……諸君……何々ではありませんか……と言つて潑剌たる眼を聽衆の上に注いだならば、必ずや聽衆はその音聲と共にその眼にチヤームされて共鳴するであらふ。

斯樣な譯で、眼は常に壇上から必要に應じて自由に聽衆に注ぎかけるだけのオチツキを持つてゐなければならない。卓のみを見詰めて眼は一歩も聽衆の上に走らぬとか、天井のみを見詰めて、聽衆の樣子態度も知らぬといふのでは決してその挨拶に趣味を持たせ、且つ共鳴せしむることは出來ない。

有名な小説『土』の著者故長塚節氏は曾つて著者に言つたことがある。『弔辭は眼で語るべきもので、口で讀むべきではあるまい』と全くその言の通だ、眞に悲しければ弔辭なんぞ堂々と讀み上げることが出來るものでない、眼で述べるほどでなければ眞の弔辭とは言はれないであらふ。

眼といふものは斯くまでに演説に於て大切なものである。眼の配り方は實に演説の成功不成功を分つ重要な動作である。

第八節　手振り法

手足を動かすこと、身振りをすること、共に式辭挨拶等は必要なことであるので、歐米諸國などではこれに關し種々の研究が積まれてゐる。我國でも近年演說の發達と共に、この手振り法、身振り法といふものは樣々に研究されでゐる。つまり演說の內容を聽衆に吸み込ませる一つの補助動作として頗る有効なものであるから、斯樣な場合には、どう身振りをするがよいか、斯樣な時は、どういふ風に手振りをしたら有効かといふやうな研究は種々に積まれて今は一種の型ともいふべきものがあるが、これ等は一々知らずとも常に自然の發露として手振り、身振りをなす程度とする方が無難である。粗野に流れず、優美に、高尙に、を心懸けて居ればをの手振り、身振りが自然の發露として行はるゝとき、必ず有力な動作となるものである。

無暗に氣取つて、殊更らしく手を振り體を動かす如きは却つて聽衆に嫌厭の情を起さしむるものである。

第九節　卓の叩き方

人によると激しもせねば熱しもせぬに、無暗と卓を叩く癖の人がある。惡い癖である。熱しても、激しても無暗に卓は叩くべきものではない。これを巧みに叩くことに於て初めて効果はあるのである。

元來、卓を叩くといふことは、多くの場合聽衆に注意を促がし、または賛同を求むるの意にあるもので、この場合にも決して亂暴に叩くべきではない。右手で輕く机の一端を叩くといふ態度に行ふべきものである。

卓を叩き、机にかぢり付き、机を搖り動かすが如き動作は、一見その人の熱せるさまを現はすやうであるが、こうしたことは決して眞に聽衆から共鳴を買ふ所以ではない、ともすれば嘲笑の的となり、反感の基となることも無いとは限らない。

第十節　水の呑み方

大抵の場合成るべく水は呑まぬ方が良い、しかし長口舌を振ふ場合とか、自分の演説的度量を示すために呑まねばならぬこともあるが、その何れの場合に於ても、最も寛大、悠揚に行ふべきものである。

この場合必ず注意すべきことは、水を呑みながら、コップから眼を出して聽衆を盜み見ることである。これは斷じて禁ぜねばならない。

第十一節　降壇の態度

挨拶でも演説でも終つて降壇するときは、机上に兩手をつき体の上部を略々六十度にかゞめ、心持ち頭を下げて敬禮し、靜かに横を向き除々に降壇すべきである。この間決して、あ

はてたり、うろたへたりしてはならない。

第三章　熱心と誠實

式辭挨拶などを以て聽衆を感動說伏せしむるには、どうしても其の動作や口舌よりも、人格の力に依ることが多いのであるが、併し如何に人格も尊く權威のあるものであつても、その式辭挨拶に熱心誠實が缺けて居つては所詮聽衆に感動を與へることは出來ない。熱心誠實の欠けてゐる式辭挨拶の如きは、何如に巧妙なる辯舌を以てしても、如何に美辭麗句を以て綴つた文章でも、如何に高尙、雅美の論旨でも、決して人の同情を惹くことは出來ない。

翻つて如何に拙劣な辯舌でも、如何に美飾のない文章でも、如何に平凡な論旨でも、その人に誠實と熱心とが漲つて居れば、所謂至誠天に通ずで、その言論は必ず人を動かし得るものである。

幾百幾千の聽衆を泣かし、笑はしめ、感動せしむる原因の一つは、實に二の誠實と熱心である。誠實と熱心とを缺いた式辭挨拶は魂のない偶像の口眞似にも等しい。

されば諸君が壇上に立つて、式辭、挨拶を述ぶるにしても、長口舌を振ふにしても、必ず誠實と熱とを缺いてはならない。

第四章　權威と趣味

如何に堂々たる風彩を以て壇上に立つても、如何に慷慨悲憤して國家の經倫を論じても、その演說に權威がないと聽衆は決して感動しない、共鳴しない。

然らば權威とはどんなことか、それは自分の式辭なり挨拶なりに興味を持たせることに始まる。その話題を充分聽衆に理解させ、同感させることが必要である。如何に人格の高い人の演說でも挨拶でも、聽衆が理解し同感せなかつたならば、そこに何の權威があると言ひ得

るであらふか。

由來、興味といふものは演說なり挨拶なりの要素であり、かつ聽衆を感動せしむべき中心勢力である。しかし多くの場合、極めて老練の人を除いてはこれを實現せしむることは甚だ稀れなものである、殊に青年の式辭、挨拶乃至演說の如きに至つては、ともすれば自己の遠大なる識見を誇示するに急で、聽衆に適應する興味を提供して十分感動を與へることを忘れるものがある。それがため折角遠大な識見も、挨拶の內容も更にその効なく、遂に何等の興味を聽衆に與へることが出來ず、聽衆をして或は倦怠せしめ、或は不快の感を與へ、或は笑止を受ける如き失態に陷る例が多々ある。心すべきことである。

元來、式辭でも挨拶でも、はた演說でも、すべて深遠な理論や遠大な理想にのみ單純な歩を進めることは禁物である。常に瞬間を利用して聽衆に最も親しみのある方面の事實を拉し來つて、自己の演說なり挨拶なりの適當の部分に附け加へて說明の補助とすることを忘れて

はならない。かくすれば聽衆をして愉快の感を懷かしめ、從つて人心を感動せしむることが出來るものである。

第五章　剛毅の氣性

「スピーカー(演者)は先づ聽衆を呑め」といふ諺がある。

演者は先づ聽衆を呑んでかゝらなければ、反對に聽衆に呑まれてしまふものである。聽衆を呑むといふのは剛毅の氣性を常に養成することで、つまり膽力である。

膽力がなければ腹に力がない、腹に力がなければその演說は浮腰で落付きがない。落付がなければ演者は聽衆に呑まれて壇上に立往生をする。遂にその演說は失敗に終るのである。

故に演者は須らく剛毅の氣性を養成することが大切である。しかし剛毅だからと言つて餘り傲慢になつてはならない。剛毅と傲慢とは似て非なるものだ、節約と吝嗇の如く相似て異なるものだ。こゝの道理を誤つてはならない。

從來幾多の例によると、剛毅と傲慢とを履き違つてゐるものが少くない。吳々も注意して置く。さてそこで再びスピーカーに就いて述べるが、最初は少々大膽過ぎるかと思はれる程度が好いやうである。スピーカーたる時位引つ込み勝ちの不可なことはない。こんな膽力のない人は一度壇上に立てば自然大勢の人々の視線の焦點となるので、胴振いがし、胸騷ぎがし、一言半句も吐露することも出來ず、遂に立往生の不覺を取るものである。

この剛毅の氣性、膽力の養成といふことは、一方また場所慣れることに依つて自ら養成されるものである。場所に慣れると自ら膽力は出來る、しかし如何に場所慣れても、膽力のない人は、幾度出ても失敗するから、他の褒貶や毀譽に心を奪はれることなく、毅然として動かざるの膽力を養ふことが、スピーカとして最も大切なことである。

第六章　聽衆を捕ふ秘訣

式辭でも挨拶でも乃至長口舌の演說でも、それはすべて獨言ではない、聽衆に聽かせるのである。心から心へ傳へるのである。だから聽衆の心を捕へて、その心に自分の考へなり思ひなりを傳へなければならぬのである。即ち聽衆の心を捕ふることは挨拶なり演說なりの最大の要素である。この聽衆の心を捕ふるには、どうすればよいか。それを述べよう。

第一、先づその話題を巧みに捕へること。

第二、聽衆は今如何なることを聽かんとしてゐるかといふことに着眼し、聽衆の心中深く喰ひ入ること。

第三、言ふべきことか否かを考へ、言ふて益なきことは言はぬこと。

第四、言ふべき事については言ひ現はし方を研究すること。

第五、自家廣告をせぬやう注意すること。

第六、事實を普遍的にし何人にも判るやう演べること。

第七、漫りに外國語を交へぬこと。

第八、現代に適應されぬ言葉は餘り交へぬこと。

以上に留意し、眞意眞情を吐露し、而も禮儀に外れぬやうにするが良い。

第七章　厭氣を起させぬこと

如何なる名論卓說でも、如何に識見高邁の議論でも、聽衆に厭氣を起させてしまつては何の効果もない。その挨拶なり演說なりは完全に失敗である。

自分だけには判つて居ても、聽衆に判らなければ聽衆は必ず倦怠する。されば自分の言ふことは聽衆の現實と調和させることに努めなければならない、自分の一言一句は直ちに聽衆の胸中に滲み入るものでなくてはならない。即ち赤子にはミルク、泣く兒にはキヤラメルと

言つた風に、時と、場所と、聽衆とをよく識別して演べることが大切である。」

第八章　彌次に就て

彌次るといふことは甚だ良くないことである。自己の人格の下卑を自ら表明するものである。だから彌次るといふことは決してなすべきことではない。

しかし自分の挨拶なり演說なりで、若しこの彌次に出遇つたらどうするか。

彌次られるといふことは一面から見て、その弱點を掲げられたものであり、またその反對の意志表示を受けたものである。その何れに屬する彌次にせよ、彌次つた聽衆の方に一寸視線を向けて暫らく言葉を切つてその方向を凝視するも一方法である。しかし餘り長く見詰めたり　狼狽の氣味があつたりすると、今度は新たに反對の方面から彌次が飛び出るものであるから注意を要する。

何れの場合の彌次でも、即急當妙にこの彌次に輕く、軟らかく應酬しながら、笑つて論旨を進めることが上乘であるが、これは老錬な人に於て初めて出來ることで、初心のものには容易に出來るものではないが、常にこの注意用心があれば決して周章狼狽するやうのことはあるまい。

とにかく彌次は道行く人に、蠅か小虫が飛び付いたやうなもので、旅行そのものに重大な影響を及ぼすものでないから、意に介することなく、平然としてこれを受け流し論旨を進めた方が初心のものには間違ひのない方法である。

第九章　雄辯の秘訣

雄辯の秘訣と言つても他には何もない、要は其の人の人格である、人格崇高であればその言は例へ訥にして一言隻句をも良くし得なくとも、その式辭挨拶乃至演說は聽衆を感動し得

るものである、輕浮なる人の百萬言よりも大人格者の無言の一禮が却つて大なる雄辯となることは世にその例乏しくない、古來「無言は最大の雄辯なり」といふのは　この意味からしても大に味ふべき言葉である。

併し、この人格といふことは一貫した要素であつて、これを雄辯術の方から見ると大要左の如き注意が必要である。

一、熱心であること。
一、誠實であること。
一、態度の整正たること。
一、音聲の抑揚の巧みなること。
一、眞面目で莊重であること。
一、氣取らず飾らざること。

一、眞情を吐露すること。
一、禮儀に外れぬやうにすること。

である。而して式辭でも、挨拶でも乃至演說でも、それはすべて、その人にこれを言ふの資格あつて、初めて効を奏するものであることを會得し、大儀は常に人格にあることを心懸けねばならぬ。

第十章　式辭挨拶例

徵兵檢査合格の祝宴辭

本日は〇〇君が徵兵檢査に合格されましたに就て、心ばかりの祝宴を開いた次第であります。

諸君！

今更ら私から改めて申すまでもありませんが、兵役は國民の三大義務中の最たるものであります。兵は國家の安寧秩序を保つ大責任者でありまして、その名譽も亦非常に大きなものであります。畏れ多いことでありますが　天皇陛下　におかれましては「朕は汝等を股肱と頼み汝等は朕を頭首と仰ぎてぞ其の親しみは殊に深かるべし」と勅諭を賜はつてゐるのであります。

如何に軍人が非常なる名譽と職責とを有せられますかは、この有り難き御勅諭を拜して判ることであります。

この名譽ある軍人として〇〇君が今回合格されたのでありますが、君の潑溂たる愛國精神と、強健なる身體とは、やがて軍隊に於てその隊の模範たるべきは疑ひなき處でありますと共に、鄕に歸つては武士道の精華たる軍規風規の偉大なる教訓によつて得たる人格により、

よりよき我が村の指導者たる日の近きを信じて疑はぬものであります。

私はこゝに多數御來會の諸君と共に、〇〇君の健康と幸福とを祝し、合せて將來の發奮を切望する次第であります。

徵兵檢査合格祝宴の答辭

先輩諸君！　竝びに滿堂の諸君！

本日は御多用中にもかゝはらず、私共のために、盛大なる祝宴をお開き下さいまして多數御來會を辱ふし、その上まことに御叮重なる御歡待を蒙りますことは、私共の無上の光榮とするところであります。

また只今は、〇〇君から御一同を代表せられまして、過分な御言葉を戴きましたことは私共の光榮これに過ぐるものなく、たゞ〳〵慚愧に堪へぬ次第であります。御承知のやうに私

共如き愚鈍のともがらが軍隊に入りましたところで果して何のお役に立つことが出來ますかどうか、ひそかに心痛する次第でありますが、しかし苟くも一度び徵されて藉軍隊に入りまし以上は、飽くまでも誠實を旨とし、專心軍務に服しまして、軍人たるの本分を守り、國恩の萬分の一にも報ゆると同時に、諸君の御教訓にも背かぬ覺悟で御座います。どうか今後將來御見捨てなく御指導の程を幾重にも御願ひ申します。謹んで一言謝辭を述べ併せて諸君の御健康をお祈り申します。

同（志願兵の場合の一例）

滿堂の諸君！

本日は皆樣御多用中なるにもかゝはらず、私の爲めにかくも盛大なる祝宴をお開き下さいまして、その上いろ〳〵と御鄭重なる御歡待に預りますことは、不肖の光榮これに過ぐるものなく、まことに家門の榮譽、一家の譽れ身に泌みて、たゞ〳〵感謝感激の外はありません。

御承知の如く私は高等小學校を卒業した後は、僅かに二ケ年間、青年訓練所に通つただけの淺學菲才のものでありますから、入營後果して御國のお役に立つことが出來るか、どうか自分ながら疑がはしく存じてゐる次第でありますが、苟も自ら進んで非常時日本の軍隊に身を投じたものでありますから、將來の成否は度外におき、誠實、勤勉、專心軍務に服しまして、軍人たるの本分を守り、國恩の萬分の一に報ゆるの決心であります。そして今日まで皆樣から受けた御教訓、御指導に對しましても、その萬分の一たりとも報ひたいと念願致して居ります。どうか將來とも御指導御教訓の程を、この機に於て偏に御願ひいたしたいと思ひます。

謹んで蕪辭を述べて感謝の意を表し併せて皆樣の御健康をお祈りいたします。

入營兵送別會の辭

來る〇月〇日、〇〇君外〇名の諸君がそれ〴〵入營せらるゝにつきまして、こゝにこの送別會が開かれ、不肖またその末席に列するの光榮に浴しましたことは、まことに驩喜に堪へぬ次第であります。

承りますれば我が村に於ける本年度の徵兵適齡者は〇〇名でありまして、その中合格者は〇〇名といふ多數を占め、實に全體の何割といふ好成績を示し他町村に批し大に誇りとするところであります。即ちこゝに御列席の諸君はこの名譽を擔つて居らるゝのでありますが私はこの席末をけがしまして諸君をお送りすることの出來ることを無上の光榮と存ずる一人であります。

そこで今夕、私は如何なる言葉を持ちましてその餞と致すかと申しますと、申すまでもなく兵役は國民の三大義務の一つでありまして、帝國臣民の男子たる以上は、何人もこの義務を果さなければならぬのであります。諸君は實にこの義務を果し得る最も幸福な身體と名譽ある身分であります。如何に國民の義務だからと申し、どんなに兵役を希望し、志願をいたしましても、もし身體が虛弱であるなればこの名譽ある兵役に就くことは出來ぬのでありますから、諸君がこゝにこの義務を果し得ると申しますのは、日本國民として洵に名譽の極みであります。

私が今更ら申しますまでもなく、軍人は畏くも　陛下の股肱でありまして、亦實に國家の干城であります。でありますから、平常忠勇義烈の精神を養ひまして、一朝國家有事の日が來ましたならば、義勇公に奉じ、身命を犧牲にいたしまして軍人たるの本分を盡さねばなりません。實にその任務たるや重且つ大なりと申さねばなりませぬ。斯樣な譯でありますから希くば諸君は一度び御入營なされました以上は、どうか朝夕軍務に勉勵いたされまして

天晴れ帝國軍人の眞面目を發揮し、忠義の本分を盡して他兵の模範となられますやう切望する次第であります。

これは獨り諸君の名譽ばかりではありません、亦實に本村の名譽であり、御一家御一門の榮譽であり、且つは後輩の龜鑑ともならるゝことゝ存じます。

最後に御願ひ申して置きたいことは、如何に忠勇義烈の精神に燃えて居りましても、身體虛弱では如何ともいたしかねますから、この上とも衛生に御注意下さいまして、いやが上にも身體を强健にせられますやう、切望いたす次第であります。

今夕の送別會に臨み、こゝに有志一同を代表いたしまして、一言以て祝辭といたします。

入營兵士送別會の答辭

今夕は、不肖等の入營に際しまして、こゝに盛大なる送別會を御開催下さいまして御歡待を蒙り、且つ御懇篤な祝辭を辱ふいたし、誠に感謝に堪へぬ次第と、深く御禮を申し上げます。

私共は身甚だ不肖なるにも拘らず、幸ひにも選ばれまして大日本帝國の軍人となり、畏くも　陛下の股肱として國家防護の重任を擔ふことゝなりました。まことに一家一門の名譽これに過ぐるものはないと心私かに感謝して居る次第であります。

申すも烏許がましい次第でありますが、私共は上に萬世一系の天皇を戴き、建國三千年以來私共の先祖は限りなき天恩に浴して居るのであります。現在も亦將來も同樣、鴻大なる天恩に浴するのでありますから、この皇恩の萬分の一に報ひ奉らなければならぬことは申すまでもありません。幸ひに私共は今回帝國の軍人となりこの鴻大なる皇恩に少しでも報ひ奉ることの出來る身分となりましたことは、男子の本懷實にこれに過ぐるものはないと私かに喜んでゐる次第であります。

でありますから此の上は只管武勇の精神を錬り、軍規を遵奉し、忠節の本分を盡し、若し一旦緩急のありました場合は、義勇公に奉じ、鴻恩の萬分の一に報ずる覺悟であります。どうか今後共偏に御指導御鞭韃の程を御願ひいたします。

こゝに入營者を代表いたしまして、皆様の御厚意を謝し、併せて一言所感を述べて答辭といたします。最後に皆様の御健康をお祈りいたします。

海軍兵入團送別會の辭

今日〇〇君〇〇君兩氏が〇〇海兵團に入團されるに際し、その送別會に列席し一場の挨拶を述べることの出來ますのは、小生の甚だ光榮といたすところであります。

申します迄もなく、我が帝國の軍備は、彼の日清戰爭や日露戰役の當時に較べますと、陸に於ても海に於ても、著しく發達擴充いたされましたが、特に海軍に於ける創造的發達擴充には驚異に値するほど大なるものであります。惟ふに太平洋問題が世界注視の的であり、太平洋が國際關係上の焦點である今日、太平洋上の一島國であります我が帝國が、海軍に大なる力をいたさねばなりませぬことは當然でありまして、海軍の驚異的發達も亦これに基因するものと信じます。

若し不幸にして一朝事ありました時は、太平洋上たりと、陸上たりとにかゝはらず、必ず先づ艦隊が率先出動せねばならぬ國狀にあるのであります。かの日清、日露、日獨の戰役近くは上海事變に徵しても明らかなことでありますが、將來の戰爭は今日よりも更らに海軍の率先的出動を必要とするのであります。海軍の任務まことに重且つ大なりと申さねばなりません。のみならず海軍は平時に於ても海外同胞の保護、貿易の後援、商船の守護など澤山の重大なる任務を有して、戰時と平時とに拘はらず國威進展の上に洵に重大なる任務を持つて居るのであります。

特に國際聯盟離脱後に於ける我が國は、強力なる海軍の力に俟たねばならぬことが甚だ多いのであります。申すまでもなく強力なる海軍といふのは超努級艦や新兵器のみの謂ひではありません、實に忠勇義烈なる海軍諸兵諸氏の力に據らなければならぬのであります。

○○君等兩名は、豫ねてこれを知り、訓練所在所中から海軍兵を志望されてゐたのでありましたが、本年の身體檢査に於て首尾よく合格されまして○○君は水兵、○○君は機關兵として何れも採用の光榮に浴し、近日某々海軍團に入團せらるゝことゝなつたのであります。兩君に於かせられましては多年の宿望が達せられたのでありますから、御滿足は勿論のことゝ存じますが、本村の名譽もまた勿論で、非常時日本の爲め誠に慶賀に堪へぬことであります。

希くば兩君御入團の上は、夙夜軍務に精勵いたされ、忠勇義烈の精神を錬磨し、剛健强固の體力を鍛錬せられまして、海國日本の男子の本領を盡されんことを切望に堪へませぬ。

こゝに一同を代表いたしまして兩君の行を送り、併せて兩君の前途の榮達と健康とをお祈り申します。

海軍兵入團送別會の答辭

今夕は私共のために、御多忙中でゐるにも拘はらず盛んな送別會をお開き下され、且ついろ〳〵と御懇篤なる御教訓を給はり誠に感謝に堪へぬ次第であります。

御承知の通り私共は今年海軍兵志願をいたしましたところ、幸ひにも合格いたしまして玆に漸く年來の宿望を達することが出來、まことに本懷に存ずるものであります。しかしこゝに最初の希望は達し得られましたが、入團の後、果してよくその職責を盡すことが出來ますかどうか、衷心杞憂いたして居る次第であります。けれども私共も日本男子であります、海國日本の青年であります、苟も一度志願いたしました以上は、軍規に服從し軍律を守り、一

意專心軍務に精勵いたす覺悟であります。殊に軍人の名譽を汚すやうな行爲は絶對に愼しみますことは勿論、只今まで皆樣から受けました御教訓を空しふするやうのことは斷じていたさぬ覺悟であります。そして若し一旦緩急のありました場合は、それこそ無上の好機でありますから、一身を鴻毛の輕きに比して奉公の誠をいたす決心でありますから、どうか御安心を願ひたいと存じます。

こゝに一言答辭を述べて諸君の御厚意を謝し、併せて御健康と御幸福とをお祈り申します。

幹部候補生送別會の辭（其一）

諸君！

今日〇〇君が幹部候補生として〇〇聯隊に入營せらるゝに際し、こゝに聊かその行を盛んならしむるの微意によつて送別會を開くに當り、私が幹事の一人として御挨拶申上ぐるといふことは誠に光榮と存ずるところであります。

諸君！　古來我が國民は父母に仕へては孝、君に仕へては忠、兄弟に友に、朋友相信じ、恭儉己を持し、博愛衆に及ぼすの國民であります。忠勇義烈の精神に富み、剛健にして獨立の氣象豊かな特性を持つ國民であります。畏くも上には萬世一系の皇統を踐ませ給ふ叡聖文武なる　天皇陛下を奉じ、下には忠勇無比の軍隊を擁し、そして更らに九千萬一心同體となり以て國家と存亡を共にせんとする忠勇無二の國民を以て成る世界無比の至善至美なる國家であります。

〇〇君はさきに東都に遊學し、某大學に入り螢雪の功空しからず、こゝに卒業と共に今や幹部候補生として近く〇〇聯隊に入營せらるゝのであります。

申すまでもなく幹部候補生は、教養あるものゝために特に設けられましたものでありまし

て、一朝國家に事あるの日が到來いたしましたなら、この至善至美なる國家を守護する我が陸軍の幹部となるものであります。誠に無上の榮譽でありますと同時に、その職責たるや重且つ大なりと申さねばなりません。

○○君は、諸君の既に御存じの通り資性剛健、そして勇悍の氣象に富み、加ふるに學識高邁、眞に我が帝國陸軍の幹部として理想的の方であります。その○○君が今回國家の干城として幹部候補生を志願せられ、軍務に服せらるゝといふことは、○○君の本懷たるのみでなく實に我が村の名譽として洵に慶賀に堪へぬ次第であります。

希くば奮勵以て軍務に御精進あらせられ、未來の將校として軍人の龜鑑たることを切望してやまぬ次第であります、こゝに一言一團を代表して送別の御挨拶と致します。

同　上

（其二）

滿堂の諸君！

今日極東の風雲は決して靜穩だとは申されません、國際聯盟離脱後の我が國民は弓を袋の高いびきでは居られません。隣邦支那の情勢はどうでありませう。○國の侵略的意圖は果して我が國をどう見てゐるでせう、太平洋上に浮ぶ○○艦隊の威嚇はこれを何と見るべきでせうか、その他外交に、貿易に、私共は眞に非常時たるを認識せねばならぬ時であります。

この時に當り、義勇奉公の精神に富み、忠勇義烈の氣象深い○○君が、進んで幹部候補生として何々聯隊に入營するといふことは、實に吾々友人は勿論、本村の光榮でありまして國家の爲め誠に慶福に堪へぬ次第であると存じます。

御承知の通り○○君の父君は曾つて明治三十七八年の戰役に歩兵軍曹として驍名を馳せ、東鶏冠山の夜襲には敵陣深く攻め入つて偉勳を奏し、功六級金鵄勳章を賜はつてその勳功を表彰されました勇士であります。この勇士を父君と仰ぐ○○君でありますから一朝事ある日

には、必ずや父君にも勝る偉勳を奏し、軍人の亀鑑となるゝものであらふことを私は信じて疑はぬものであります。

希くば〇〇君よ、入營後は折角身體をいとひ、軍務に勉勵せられ、後輩の模範たられんことを。こゝに一言蕪辭を述べて御挨拶といたします。

幹部候補生送別會の答辭

親愛なる滿堂の諸君！

私は今回僥倖にも幹部候補生に合格いたしまして、近日〇〇聯隊に入隊することになりました。これについて御多用中にも拘はらず今夕かくも盛大なる送別會をお開き下されましたことは、不肖無上の光榮として深く感謝する次第であります。殊に只今は御懇篤なる送別の辭や、過分な祝辭を給はりまして、まことに慚愧に堪へぬ次第であります。

元來私のやうな愚鈍菲才なものが、果して軍人たるの重責を完全に盡し得られませうか、どうか聊か懸念する次第でありますが、しかし兵役は我が帝國臣民の最大義務として必ず盡さねばならぬものであります。たゞ遺憾ながら私は私の職務の都合から幹部候補生の制度に基き今春學業を卒へて直ちに志願した次第でありまして、除隊後は再び現在の職務に從はねばなりませぬが、苟も軍人として國民の義務を果しますことは、私の年來の素志でありますから、今この素志の端緒を得ました以上は、孜々として軍務に精勵いたしまして、必ず軍人たるの本領を盡したいと思つて居ります。

殊に本村の如きは、彼の日清、日露、日獨の各戰役を初めとし、近くは滿洲事變、上海事變に於きまして、何れも屍山血河の境に勇名を轟かし、殊勳を樹てられた先輩諸君が多々ありますので、私も大にこの先輩諸君に刺戟されましたので、將來國家有事の日には、勿論先輩諸君の如き殊勳を樹つることは出來ませんけれど、身を挺して義勇公に奉じ、鴻恩の萬

分の一に報ゆるの覺悟で御座いますから、先輩諸君に於かれましては誠に御迷惑でもありませうが、今後共大に御鞭韃を給はらんことをこの機會に切に御願ひ申して置きたいと存じます。

こゝに諸君の御厚情を感謝し併せて御健康を祈ります。

徵兵檢査合格祝宴會謝辭

幹事諸君！　並びに滿堂の諸君！

今夕は御多用中を、私共壯丁のために斯くも盛大な祝宴をお開き下さいまして、多數の皆様の御來駕を仰ぎ、御鄭重な御歡待をいただきますことは、私共の無上の光榮として感謝に堪へぬ次第であります。ことに只今は幹事〇〇君から御一同を代表されまして、いろ〳〵と不肖私共のために過分な御言葉を頂きましたことは、たゞ〳〵慚愧の外ありません。

御覽の通り私共のやうなものが、召されて軍隊に入りましたところで、果して御國の爲めにお役に立つか、どうか、ひそかに心を痛めて居る次第でありますが、幸ひに先輩各位の御懇篤なる御指導を頂きましたので、軍人精神とはどんなものか、軍規とはどんなものか、風紀とはどんなものか、略々諒解も出來ましたので、入營いたしました後は挺身その職に盡瘁し、專念その職務を守つて、軍人たるの本分を盡し、國恩の萬分の一に報ゆると同時に、先輩各位の御教訓に背かぬ覺悟で御座います。どうか今後共何分の御教訓を給はらんことを御願ひ申します。謹んで謝辭を述べ併せて各位の御健康をお祈りいたします。

入營兵送別會主催者代表の送別辭

滿堂の諸君！

僭越ながら主催者側を代表いたしまして、一言送別の辭を述ぶることを得ましたのは、私

の甚だ光榮と存ずるところであります。

諸君！　私はこの機會に聊か平素の所感を述べて餞けといたしたいと存じます。

歐洲大戰以來、歐洲の各國は戰禍の恐るべきに驚愕いたしまして國際聯盟を組織し、この國際協調機關によつて戰爭を根絶いたし、人類の幸福を確保しようといたしましたが、これは主義として、また運動として、まことに結構なことでありましたが、併しそれは徒らに自國の利益のみにかられ、他國の利害に關心を持つことの出來ない謂はゞ机上の空論でありまして、むしろこの認識なき暴論のために束縛されて却つて自國の危險を拱手傍觀せねばならぬやうな恐るべき結果が往々に招來いたしました。軍縮會議の如きものも亦同樣でありまして、何等平和確保の上に効果を齎らすやうのことはありません、むしろこの束縛のために協定以外の方面に異狀なる發達を遂げしめ、その不備を補はなければならぬ情勢を招來いたしました。

斯樣な譯で、永く世界の平和を保つ所以のものは、國際聯盟でも無ければ、軍縮會議でもありません、全く忠君愛國の至誠を持つ强力なる軍隊を有する外に途はないのであります。換言いたしますれば世界平和の確保は、忠勇なる軍人を有するに在ると私は信ずるのであります。忠君なる軍隊を有せずして何處に平和を求め得られませう。

この意味に於て軍人は實に戰爭を未前に防ぐ國家の干城であると信ずるものであります。只今こゝに御列席の入營者諸君は、實にこの平和の保證者として、陛下の股肱となられその重且つ大なる任務に就かれるのであります。

私はこゝに滿腔の誠意を以て諸君の健康を祈り、併せて諸君が平和の保證者として完全ならむことを切にお祈りいたす次第であります。

入營兵送別祝宴列席者の挨拶

御列席の入營者諸君！

私はこゝに諸君の最も名譽ある門出を送る光榮を有し誠に驩喜に堪えません。末席を汚がしました以上、一言蕪辭を述べて餞といたしたいと存じます。

元來、私共人間の門出にはいろ〳〵あります。物見遊山の爲めに暫らく旅行する場合もあります。出稼ぎの爲め暫らく故郷を離るゝ場合もあります。就職その他いろ〳〵の關係で故郷に止まることの出來ぬ場合もあります。その他數へ來れば際限のないほどいろ〳〵の理由で故郷を門出する場合がありますが、人生如何なる門出が一番名譽で、光榮であるかと申したなら、召されて軍隊に入る所謂入營の門出ほど名譽な光榮な門出は無いと信ずるのであります。

召さるゝもの〻名譽！　光榮は今更ら私がこゝに喋々を要せずとも、既に充分皆様御承知のことゝ存じます故、改めては申上げませんが、翻つて私共は入營者諸君に衷心から御禮を

申上げねばならぬと信じます。申上ぐるまでもなく、私共が今日こうして平穩無事に生計を營むことの出來ますのは、勿論　陛下の御聖恩に據ることでありますが、それと同時に忠勇なる軍隊の存することによつて得らるゝ御蔭であります。

若し我れに忠勇なる軍隊が無かつたなら、どうなるでせう。世界の歴史はあざやかに事實を物語つて居ります。例を遠くに求めなくとも近くこれを隣邦支那に御覽下されば明瞭であります。

私は今こゝに御列席の諸君にお目にかゝり感慨更らに一層深いものがあり、感謝の念やみ難く即ち平素抱懷する考への一端を述べて御挨拶に代へた次第でありますが、希くば御列席の入營者、諸君！　諸君の御體は諸君のものにして諸君のものではありません、畏くも　大元帥陛下の股肱、即ち　天皇陛下のお股、御肱となられた世にも尊い御體であります。どうかこの上は充分御健康に御氣をつけられまして、至尊の股肱たるの本分をお盡し下されんこと

を、こゝに末席より一言以て送別の御挨拶といたします。

送別會祝宴志願兵の答辭

今夕は不肖〇〇の爲めに斯くも盛大なる送別の宴をお開き下さいまして、手厚き御歡待に預り、その上皆樣からいろ〳〵と御褒めの言葉まで頂き、不肖の光榮これに過ぐるものはありません。

御承知の通り水呑百姓の三男で、教育とては僅に高等小學校を卒へたばかり、何一つ取り柄のあるものではありませんが、人間この世に生れ來た以上は、どうかして少しでも多く御國の爲めに盡して故郷に歸りたいと思つて居りましたが、私のやうなものは、どんな方面に向つても所詮御國の爲めに少しでも多く盡す餘地が有りません。そこでいろ〳〵思案した結果選びましたのが、軍人志願でありました。こゝに御列席の〇〇軍曹殿や、〇〇伍長殿にも

相談いたしました處、非常に御賛成下さいまして、何くれとなく御教訓に預りましたので、斷然決心いたしまして願書を差出しました處、幸ひにも聞届けられまして、こゝに不束ながらも帝國陸軍の末席に加はるの光榮に浴した次第であります。強健な身體以外は何物も持ち合せて居ない私ではありますが、入營の上は全身にみなきるこの赤き血潮に、忠勇義烈の活を入れ、必ず奉公の誠を盡し、皆樣の御厚情に報ゆるの覺悟で御座います。

極東の風雲何となく靜穩を缺く今日、青山到る處に私の來るを待つてゐてくれます。どうか私のこの決心に對し今後とも御指導御鞭韃を給はらんことを切に御願ひ申します。これを以て謝辭といたします。

滿期除隊兵歡迎會有志の挨拶

〇〇君や〇〇君等の御入營をお送り申しましたのは、まだ昨日のやうに思はれたのであり

ますが、早や二年の星霜は過ぎて、こゝに諸君を御迎ひするの光榮を得ましたことは、諸君の御兩親と同樣、誠に欣賀に堪へぬ次第であります。

抑も軍隊は、軍規風紀の嚴肅を以て主張とする處でありまして、命令一下すれば水火をも辭せずとする精神を養成される國民最高の精神學校であります。諸君はこの二ケ年をこの最高の學府に於て教育を受け、嚴正なる軍規の下に忠勇克己の精神を錬られて、故郷にお歸りになつたのであります。どうかこの上　この二ケ年間に御修得せられました立派なその御精神を以て社會に御盡し下されんことを切望に堪へません。最近ともすれば浮華輕佻に流れ易い人心に、諸君が規律あり秩序ある軍隊教育の精髄を適用されまして、指導訓化に盡されて下さいましたなら、獨り本村の向上發展に資するばかりでなく、これを大にしては我が國の向上發展の基礎となるものでありましてこれに過ぎた感謝はありません。こゝに諸君が二ケ年の間、健全なる身體と盡忠の精神とを以て國民の最大義務をお果しなされたことを感謝すると共に、今後益々社會の爲めに御盡瘁あらむことをお願ひいたす次第であります。有志一同を代表し、こゝに諸君の御功勞を感謝いたします。

滿期除隊兵歡迎會祝辭

滿堂の諸君！

今夕こゝに親友〇〇君の滿期除隊をお迎ひいたし、二ケ年間の〇〇君の勞を犒ふことの出來ますのは、諸君と共に私の最も欣快に堪へぬ次第であります。

私共は二ケ年前〇〇君と同じ日、同じ場所で徵兵檢査を受けたのでありましたが、不幸にして抽籤にもれましたため、御國に御奉公することも出來ず、平々凡々の日を故郷に送つて居りましたが、〇〇君におかれましては、名譽ある帝國軍人として歩兵何聯隊に入營せられ、立派に國民の最大義務を御盡しなされ、而も聯隊の模範兵となられ幹部適任證まで授

興されて今日御歸鄕あらせられた次第であります、申すまでもなく幹部適任證は何人にも授與されるものでなく、將來我が光輝ある帝國陸軍の幹部たるに適する隊內最も優秀の人にのみ授與される軍人として最も名譽あるものであります。親友〇〇君がこの最大の名譽を獲得して歸鄕されましたことは、單に〇〇君の名譽のみでなく、實に我が村の名譽であり、實に我が村の後進者に非常なる敎訓を垂れて下されたものであります。この意味に於ても私共は深く〇〇君に感謝せねばならぬと存ずるのであります。

こゝに〇〇君の滿期除隊を祝し、併せて二ケ年間の勞を犒ふと共に、將來本村の爲めに一層の御盡瘁あらむことを御願ひいたす次第であります。

滿期除隊兵、在鄕軍人團代表祝辭

我が〇〇在鄕軍人分會は、今回諸君が二ケ年間の現役を了へられて、無事歸鄕せられたるに際し、滿腔の誠意を以て諸君の勞を多としこれを犒ふものであります。殊に〇〇君が再役を志願されまして軍隊に止まり、今日こゝに陸軍步兵軍曹として歸鄕されましたことは、我が在鄕軍人分會に一段の光彩を添へられたことで、誠に我々の喜びに堪えない次第であります。

さて諸君！　諸君は既に軍人たるの名譽を擔つてゐるのであります。申すまでもなく軍人は、その現役たると豫備役たると、後備役たるとに別なく苟も軍籍にあるものは、常に軍人たるの面目を維持いたしまして、現役中に修養されましたことは、將來ともに恪守いたすべきことは申すまでもありません。かりそめにも不正の行爲なとがあつてはならぬのであります。

私共はこの軍人精神に則りまして、平時にありましては家業に精勵いたし、もし一朝事變に際しましたならば、國家の干城として一死以て君國に殉ずるの覺悟がなければなりませ

ん。

尚、今回諸君の滿期除隊によりまして、本村在郷軍人分會は更らに〇名の增員となつたのでありますが、諸君の最新の軍事教育については爾今諸君の御指導に俟つべきものが多々あることゝ信じます。どうか本會のために大に御努力あらんことを切望いたします。こゝに一言述べて歡迎の辭といたします。

滿期除隊歸郷兵歡迎會の答辭（代表者側）

滿堂の諸君！

歸郷兵一同を代表いたしまして謹んで謝辭を申上げます。

今回私共が滿期除隊兵として歸郷するに際し、かくも盛大なる歡迎會をお開き下さいまして、御歡待に預り且つ又御懇篤なる御祝辭まで辱ふし、一同感謝に堪へぬ次第であります。

顧みますれば二年前、私共が入營いたしますときも、今日のやうに盛大な送別の宴をお開き下さつて私共の行をお送り下され、その上在營中もしば〳〵慰問の辭をお送り下されまして、とかくゆるみ勝ちな私共を激勵下されました諸君の御厚意に對しては深く〳〵感銘いたして居りました。しかしながら淺學菲才の私共はこの御厚意に對し、少しの御期待に副ふことも出來ず、何等の功績をも擧げ得ずに終つたことは甚だ慚愧に堪へぬ次第と深く御詫びを申上げねばなりません。でも幸ひに大過もなく兵役を了しまして聊か奉公の義務を盡し得ましたことは、不肖の私かに光榮と致すところでありまして、これ偏に諸君の御指導御激勵の賜と滿腔の感謝を捧ぐる次第であります。

尚、私共は今回二ケ年の現役を終つたからと申して決して兵役を完了したのではなく、豫備役、後備役として兵籍にある以上、苟も國家の干城として重責を荷ひ居るものであります

から、この上は在郷軍人として益々至誠以て公に奉ずるの覺悟であります。

希くば本村の長老並に在郷軍人分會先輩諸君の御誘導御指導を仰ぎ大過なきを期したいと念願いたして居ります。どうか何分の御指導をお願ひいたします。

今夕かくも盛大なる歡迎會に御招待を頂きまして、再び諸君と相見るの光榮を得、まことに歡喜に堪へぬ次第であります。一言御禮を述べ併せて將來の御誘導を御願ひいたす次第であります。

滿期除隊兵歡迎會答辭

滿堂の諸君！　謹んで謝辭を申述べます。

諸君！

私はたゞ身體が强健であつたといふだけで、帝國軍人たるの名譽を擔ふ身となり、今日滿期除隊となつて歸鄉したのであります。然るに諸君は私のこの無能だつた二ケ年を、何のおとがめもなく、却つて斯くも盛大なる歡迎會まで御催し下され其の上いろ〳〵と過分な御祝辭まで給はりましたことは、まことに慚愧に堪へぬ次第と深く〳〵感謝いたして居ります。

尙、私の在營中は何かと御指導御後援に預り、かつ留守宅に對しましては、いろ〳〵と御懇篤なる御慰問を給はりつゝあることを聞きまして、その都度諸君の御厚情を衷心感謝いたして居つたのであります。斯樣に御厚情に預りました私が、何のなす處もなく、平々凡々本日歸鄉いたしましたにつき、かくも盛大なる宴までお開き下さいましたその御芳情は、私は勿論私の家族一同の永久に忘れることの出來ぬ光榮であります。何時までも心膽に銘じて自戒の資となし、御厚情の萬分に報ひたい覺悟であります。

謹んでこゝに感謝の意を表します。

凱旋兵歓迎會の祝辭

凱旋の勇士諸君！

私は只今、諸君の元氣溢るゝ御容姿に接し感激の餘り、敢えて僭越を省みず、滿腔の歓喜と感謝とをこの末席から捧げたいと存じます。

諸君が零下實に三十度を算すといふ滿洲國の曠野に、その嚴寒と戰ひながら、變轉極りのない匪賊共を討伐されましたその御心勞は、決して尋常一様のものでないと信じてゐます。

また夏は炎熱金をも熔かすといふ大陸で、一本の木蔭さへもない大曠野に、東奔西走して匪賊を撃滅し、東洋永遠の平和の爲めに盡されたその御辛苦は、所詮私共の想像だに及ぶものでないと信ずるのであります。

この寒暑と戰ひながら、彈丸雨飛の間に、一身を君國に捧げて御盡瘁あらせられましたその御功績に對しては如何なる辭を以てしても尚足らぬことを信じまするので、私はこの兩眼からはふり落つる感謝の涙を以て、諸君の御心勞に應へたいと思ふのであります。感謝の餘り一言以て祝辭といたす次第であります。

凱旋兵歓迎會開會の辭　（主催者代表）

本日こゝに本村出身の凱旋兵士諸君をお招ぎして歓迎會を催すことの出來ましたことは私共のまことに歓喜に堪へぬところであります。即ち私は僭越ながら主催者を代表いたしまして、一言開會の御挨拶をいたしたいと存じます。

そも〳〵我が大日本帝國が東洋永遠の平和を確立いたし、東洋民族の福利を増進いたします爲め、遂に止むなく某々國と事端を開きまして既に三年、我が陸海百萬の將士は悉く忠勇義烈、千里を馳驅して各地に奮鬪せられたのであります。その間、皇軍の向ふところには

敵なく戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず陷るといふ勢で全くの連戰連勝、遂に彼をして和を乞ふのやむなきに至らしめたのであります。實に今回の大戰は有史以來のことでありまして、その偉勳は諸外國の等しく驚嘆するところでありました。

この有史以來の大戰に際し、諸君は大命を奉じて父母の膝下を辭し、妻子に訣れ、遠く故國を離れて、嚴寒炎暑の異域に幾度か轉戰されたのであります。その間或は砲烟彈雨の中を潛り、或は屍山血河を踏み、九死に一生を得て、到る處に殊勳を奏し、今日こゝに凱旋されたのであります。その艱難辛苦は如何ばかりであつたか、所詮私共の想像の及ばぬところでありますが、しかしその困難に堪へ艱苦に克ち、忠烈極まりなかつたその御働きが今日の最大名譽を齎らした所以であります。私共はこの御辛勞を想ふとき、諸君のこの御功勳を想ふとき、如何なる辭を以てこれを表はしてよいかその辭を知らぬのであります。

今夕は折角諸君を御招待いたしましたが、甚だ粗酒粗肴で、到底諸君の永い間の御出征の

勞を慰むることは出來ませんが、どうか我々一同の微衷を諒といたされまして、充分の歡を盡して下さるならば、一同のこの上もない滿足であります。

こゝに謹んで諸君の永い間の勞を謝し、併せて開會の御挨拶といたします。

凱旋兵歡迎會の謝辭

今夕は私共出征軍人の凱旋に際しまして、かくも盛大な歡迎會を御催し下され、その上鄭重なる祝辭まで給はりましたことは、私共出征軍人の誠に感謝に堪へぬ次第でありまして、一同に代りこゝに深く御禮を申上げたいと存じます。

抑々今回の戰役は、まことに空前の大戰でありまして、國家危急存亡の岐るゝ所でありましたことは今更ら私から申上ぐるまでもないことで御座います。幸ひに皇軍は連戰連勝の大功を奏しまして、敵の死命を制して遂に和を乞はなければならぬやうにいたしましたが、

これは偏に　陛下の大御威稜によることでありまして、同時にまた皆様方國民の銃後の力に據つたものであります。決して私共軍人のみの力によるものではありません。一にこの名譽と功績とは諸君銃後の方々のお力によることゝ信じて居ります。

たゞ私共は、幸福にも大命を奉じまして、出征の軍に從ひ、諸君の先頭に立つて戰鬪に參加したといふに過ぎぬのであります。しかもその間、何等功績の見るべきものもなく、たゞ徒らに員に加はつて從軍の名譽を擔ひ、一命を全ふして凱旋したに過ぎぬものであります。

然るにかくも盛大なる歡迎會をお開き下され、その上過分のお褒めや御祝辭までも辱ふし、衷心慚愧に堪へぬものがあります。こゝに一同を代表いたしまして謹んで感謝の意を表します。

戰死者を弔ふの辭（文書）

維時昭和何年何月何日何々、在鄕軍人分會員何某、謹んで故陸軍步兵軍曹何某君の柩前に白す。

さきに我國某國と干戈相見るや、某君奉公の好機到れりとなし、踴躍して軍に從ひ征途に上る。時恰も春風駘蕩として野に花笑ひ、山に鳥囀る。我等鄕黨擧げて君の行を盛んに送るや君庭前の櫻花を指して、我も亦かく潔く散りて護國の鬼とならむと、欣然として征途につきしものを、今や秋風蕭々として野に綠葉なく、梢に花影を止めず、孤雁徒らに月下に悲唱し、人心寂寥を感ずるの時、遂にこの訃音に接す。あゝ悲しい哉。

君や性豪邁にして勇悍、出征以來數度の戰鬪に參加して勳功を樹てたりしに、今や不幸敵彈に中つて斃る。嗚呼何ぞその壯んなる。由來生あるものは死を免れざるところ、君今一死以て公に奉じ、長く護國の神となる。軍人の本懷これに過ぐるものなし。蓋し君が勇名と武勳とは、永く後世の亀鑑たるべく、死して餘榮ありと謂ふべし。

こゝに謹んで弔辭を述べて君の英靈を慰む、英靈希くば來りうけよ。

同　上　（其二）

秋風肅颯として落葉地を埋むる時、陸軍歩兵伍長〇〇君、陸軍衛戍病院に於て長逝せらる。あゝ悲しい哉。

君今秋〇〇の野に於ける機動演習に於て病に罹り、遂に衛戍病院に入院治療中の由を聞き我等　一日も早く君が全快して再びその勇姿を〇〇聯隊に現はす日の近きを祈りしに、不幸遂にその訃を聞く。何ぞ痛惜に堪ふべけんや。

君資性溫良にして而かも勇悍、豪邁にして優雅、一昨年秋陸軍幹部候補生を志願して身を軍籍に投ずるや、夙夜軍務に精勵し、選ばれて陸軍教導學校に入學し、今秋卒業して原隊に服歸し、幾干もなくして遂に病に斃る。あゝ悲しい哉、君が蘊蓄こゝに傾くるに由なく、空

しく壯圖を抱いて黄泉の客となる。天何ぞ無情なる。手を擧げて蒼雲に訴ふるも寂として聲なく、首を垂れて黄泉に求むるも茫として應ふるなし。あゝ今や幽明境を異にして、再び君が溫容に接する能はず、吾人の痛惜哀悼何を以てかこれに譬ふべき。

こゝに謹んで弔辭を述ぶ、英靈希くば來りうけよ。

士官歡迎會有志者の祝辭

今夕井村氏の歡迎會に列席いたしまして、祝辭を述ぶることを得ましたのは、私の最も光榮とするところであります。

井村氏は今や海軍大尉として〇〇鎭守府參謀の重職にあつて、名聲日に隆々たる青年士官であります。由來海軍の軍人中には東郷元帥を初め有爲の人材が雲の如く多くありますが、井村氏はその間にあつて最も將來を囑目さるゝ一人であります。

氏は本村出身唯一の海軍士官でありまして、少年時代は私共も相共に同じ學窓に學んだのでありますが、梅檀は二葉より香しで、當時既に學は群童を抜き、首席を以て卒業いたしますや、直ちに〇〇中學に學び、更らに優秀なる成績を以て海軍兵學校に入學いたしたのであります。こゝでもまた首席の成績で卒業の榮譽を得まして辱くも　恩賜賞までも賜つたのであります。

果せる哉、卒業後末だ十年とは經過せませぬのに、既に海軍大尉にまで昇進せられ、しかも〇〇鎭守府參謀といふ要職に補せられて居るのであります。かの上海事變に際しましては帷幄の間にあつて作戰の巧妙を極め、曾つてその經驗のない市街戰に於きましても類例のないほどの大捷を博しまして、彼の頑迷極まりない十九路軍をして遂に和を乞はねばならぬまでにいたしましたその功績は、氏等首腦者の偉動と申さねばなりません。

惟ふに國防の如何は、實に帝國安危の岐るゝところでありまして、國家としてはこれより重大の問題はないのであります。殊に太平洋問題の盛んな今日、四面環海の我が帝國は最も重きを海軍に置かねばならぬのでありまして、海軍の强弱は、直ちに國家國民の運命を決するものと言はねばならぬのであります。この時に當りまして、私共は氏のやうな海軍の主腦者を、本村から出しましたことを無上の光榮とするばかりでなく、實に我が日本民族の誇りであると言はなければなりません。私共は將來君は必ず我が海軍を脊負立つ大提督であることを信じますので、どうか國家の爲め私共國民の爲め、ます〳〵自愛自重せられまして、國家の爲め御盡し下されんことを切望いたしてやまぬものであります。一言蕪辭を述べて歡迎の詞といたします。

同　上（例其二）（文書）

陸軍歩兵中尉〇〇君、展墓の爲め歸鄉せらるゝや舊友相寄り今夕こゝに歡迎會を開催せら

れ、不肖またその末席を汚すの光榮に接し欣快まことにこれに越ゆるものなし。

惟ふに今や我が國は、名譽ある孤立の位置に立ち、內外實に多事多端なり、軍縮會議、南洋統治問題等は一歩これを誤まらんか、到底干戈相交ゆるは避くべくもあらず、更に北滿國境に眼を轉ずれば、ソヴエットロシヤは謂れなき大軍を國境に集中整備しつゝあるにあらずや。

この風雲急なる時、東洋永遠の平和を確保するものは誰ぞ、謂はずもがな皇軍の精鋭に在り。もしそれ我が皇軍の精鋭なくんば果して如何！　我等はこの時に當り、君の如き少壯有爲の士官を本村より出し、榮ある皇軍に一段の光彩を添へ得たるを祝賀せさるべからず。

君よ、君の身は君の身にして君の身にあらず、畏くも　陛下の股肱たり、益々自重自愛君國の爲めに盡瘁あらんことを。

こゝに蕪辭を陳べて謹んで歡迎の辭となす。

在鄕軍人分會創立記念日祝辭

前に帝國在鄕軍人會〇〇分會創立第〇周年記念日を迎へまして、その末席を汚し諸君と共に前途を祝福致すことの出來ますのは、私の最も欣快とするところであります。

御承知の通り在鄕軍人分會は各町村毎に設置せられまして、各町村共それ〴〵活躍いたしまして軍人としての眞面目を發揮して居りますが、我が分會に於きましても、各町村に劣らぬ活動をつゞけ、殊に今回は皇太子殿下御降誕記念事業として五十餘村に亘る殖林事業を企圖いたしまして既にその事業を終了するの盛況であります。その他最近に於ける事業といたしまして他に誇るべきものは、各自の勞力奉仕による道路の改修、堤防の改築、揚水機置場の設立などでありまして、軍人精神の發露によるこれ等の事業は、必ずや本村の將來に稗益するところ決して僅少ではないと信ずるのであります。

斯様に本會の事績が擧ります所以は、まことに分會長殿初め幹部諸君の御熱心と、分會員各位の軍人精神によること丶、深く欣快に堪へぬのであります。

私は不幸にして第二補充兵となりましたので、諸君のやうに輝かしい現役教育を受け得ませなんだのでありますが、幸ひに諸君の御懇篤なる御指導御誘導を受けましたので、どうや ら軍人精神の如何なるものなるかも知り得まして、諸君の驥尾に附しこれ等の諸事業に携はり得ましたことを深く光榮といたすものであります。どうか今後共何吳れとなく御指導御誘引あらんことを御願ひいたします。

こゝに第〇周年記念日に際し、聊か所感を述べて御挨拶に代へる次第であります。

同上、分會長祝辭

こゝに本分會創立第何周年記念日に際しまして諸君と共に將來を祝福いたしますことは私の甚だ欣懐とするところであります。

本分會は御承知の通り分會員僅かに何十人の少數でありまして、隣町××町の百何十人に比較いたしますと、半數にも足らぬ少數でありまして、隣村何村の百何人に較べましても何十人の少數であります。しかし量に於きましては隣接町村に劣りますが、質に於ては確かに優るものあるを信じて私かに欣快を覺ゆるものであります。

基本財産の富積も既に何千何百何十何圓の多きに達し、近く××山伐採による收入も亦相當多額に達するものと信じます。斯様に分會の位置が確立いたしましたのは、一に諸君の御協力の賜と深く感謝いたす次第であります。

殊に近年の施設ではありますが入營家庭の家業援助の如きに至りましては、全く他町村の模範といたすところで、聯合分會長は勿論、支部長殿に於かれても非常に御協賛下されて居るやうな次第であります。

しかしながら私共は、これしきのことを以て滿足せず、今後ます〳〵一致協力いたしまして分會の向上發展を策し、名實共に他の模範たるやういたしたいと思ひます。

一言所感を併せ述べて記念日の祝辭といたします。

在郷軍人分會入會の挨拶

私は只今分會長殿から御紹介に預りました何某であります。本日から分會の末席を汚させていたゞくことになりましたから、今後何分よろしく御願ひいたします。

また只今は分會長から過分の御褒詞をいたゞきましたが、私は全く平々凡々の一兵でありまして、幸ひに皆様の御聲援によりまして辛ふじて上等兵となつたに過ぎぬものでありません。

併し、今日から本分會の末席を汚させていたゞきます以上は、皆様の御指導によりまして

正分會員たるの責任を盡し、在郷軍人たるの本分を完ふいたしたいと存じますから、どうか御面倒でも御指導を御願ひします。分會には分會の歴史もあり、事業もあるでありませうから、どうか心置きなく申付けられますことを重ねてお願ひいたします。

一言入會の御挨拶を述べまして、併せて將來の御指導を御願いたします。

在郷軍人分會役員就任の挨拶

本日圖らずも諸君の御推選によりまして、本分會幹事の榮位を汚すに至りましたことは、私の身に餘る光榮として深く感謝に堪へぬ次第であります。

併しながら、光輝ある本分會に、私如きものが幹事の榮位を汚がしますといふことは、甚だ慚愧に堪へぬ次第でありますので、先程分會長殿に辭任を申出でたのでありますが、本分會の慣例として一旦推選を受けたものは、必ずその任務を果すといふのが、軍人の本分であ

るとの建前から、辭任を聞届ける譯には行かぬといふ御叱りでありましたので、不肖ながら幹事の榮位を汚させていたゞくことにいたしました。

御承知の如く、私は除隊後僅かに二ケ月を經過したに過ぎませぬから、分會のことは全く何も知らぬものであります。隨がつて如何樣にすれば幹事の職責を盡し得らるゝものやらそれさへ知らぬ次第でありますから、どうかよろしく御指導御誘引の程をお願ひいたしたいと存じます。

在鄕軍人分會長就任の挨拶

分會員諸君！

諸君の推薦によりまして、潛越ながら分會長の地位を汚がすことになりました。私如き淺學菲才のものが、この榮位を汚しますといふことは、潛越至極でありますので再三前分會長

に辭任を申出でたのでありますが、遂に私の願ひは一蹴せられましたので、不肖を省みず就任いたした次第であります。

御承知の通り、我が國の現狀といふものは全く非常時でありまして、一日として安閑たるを許さぬのであります、滿洲國の獨立によつて、東洋永遠の平和の基礎は確立されたのでありますが、これのみによつて完全に平和が確立されたと申す譯には參りません。今後幾多の迂餘曲折があるものと思はねばなりません。殊にソビエートロシヤの暗躍や、太平洋問題軍縮會議の前途、國際聯盟などゝの關係を考へますと、まことに慄然たるを覺ゆるのであります。

斯樣な現狀におきまして、最も重要な鍵を握りますのは申すまでもなく、軍隊でありますそしてその軍隊を形造る在鄕軍人は此の際最も深い覺悟と決心とがなければならぬのであります、少し誇張かは知りませんが目下の國狀は、實に國家存亡の岐路に立つて居るのであり

まして、これを打開して國家を興隆に導くのは一にかゝつて軍人の務めであると言はねばなりません、萬一在鄕軍人にしてその氣力が減退し、勇氣が薄らいでゐるやうでは所詮この難關を打開することは出來ぬのであります。

諸君には深く意をこゝに止められまして、ます〳〵軍人精神の發揚に心懸け、建國三千年金甌無缺の國體をして、更らに一層の光輝あらしめるやう御協力の程を切望いたします。

分會長就任に當り一言所感を述べて御挨拶に代へたいと思ひます。

在鄕軍人分會役員辭任の挨拶

諸君！

不肖等諸君の御援助によりまして、永らく本分會役員の地位を汚すことを得ましたが、この間幸ひに大過なく無事任期を滿了することを得ましたのは、全く諸君御援助の賜と深く御禮を申上げます。

後備役も本年十二月を以て滿了いたしますが、今後本分會に止まりまして、諸君の驥尾に附し、出來得る限りの努力はいたしたい考へて居りますから、今後も今まで通り御援助御誘導の程を切望いたします。

こゝに永らく諸君の御援助により、大過なく其の職を汚し得たことを感謝し、併せて將來の御交誼を祈る次第であります。

在鄕軍人分會長辭任の挨拶

滿堂の諸君！

本日を以て私の任期も滿了いたしました。顧ますれば諸君の御推薦を辱ふして、本分會長の榮位に就きましてより滿二ケ年、その間一方ならぬ諸君の御援助によりまして、幸ひに大

過なく、無事今日任期滿了を迎ひ得ましたのは、私の最も光榮とし欣快に堪へぬ次第であります。

今や我が國は內外共に非常なる難關に逢着いたしてゐます、この難局打開は、獨り在鄉軍人のみの力によるべきものではありませんが、しかし國家の最も重要な位置にある在鄉軍人の力の如何は直ちに反映いたしまして右とも左ともなし得るのでありますから、諸君におかれましては、深く意をこゝに置かれまして、軍人精神の發揚に當られ、よりよき國家の建設に邁進せられまして君國に報ぜられますやう切望いたします。

職は今日を以て終りを告げましたが、しかし私はまた本分會を去つたのではありません、今後も諸君と共に、一意君國の爲めに盡す所存でありますから、今後共大に御援助御協力の程を御願ひいたします。

尙、今回本分會長に就任下されました、何某氏は軍隊にあること十有八年、累進して步兵少尉に任ぜられ、今秋豫備役に編入されました、模範的軍人でありまして、最新の軍事教育に造詣が深いのでありますから、本分會今後の發展は期して待つべきものと欣快に堪へぬ次第であります。

こゝに蕪辭を陳べて御挨拶といたします。

忠魂碑竣工式の式辭

本日こゝに何々事變殉難者諸君の忠魂碑竣工式を擧行せらるゝに當りまして、不肖また末席を汚すの榮を擔ひましたのは、誠に感慨に堪へぬ次第で御座います。

惟ふに過般の何々事變は、世界列國環視の下に行はれました我が國最初の科學戰でありまして、國家安危の岐るゝところでありましたことは今更ら改めて申上ぐるまでもありません。然るに我が皇軍の鄕ふところに敵なく、戰へば必ず勝ち、攻むれば必ず陷れ、所謂連戰

連勝を得たのでありまして、遂に平和を克服して、我が武威を全世界に宣揚いたしましたことは我々帝國臣民の最も光榮といたすところで御座います。これ偏に　天皇陛下の御稜威のいたすところであることは申上ぐるまでもないことでありますが、しかも亦、忠勇義烈な我が陸海百萬の將士諸君の勇戰奮鬪の結果であり、且つ一身を擲つて國難に殉した勇士の力多きにあることは、まことに明らかな事實で御座います。その勳功はまことに偉大なものでありまして、國家國民の永久に忘るゝことの出來ない感謝であります。

殉難戰死者諸君！

諸君は、生きては　陛下の股肱となつて國難に膺り、死しては護國の鬼となつて永く皇基を護るのであります。その偉大なる功績はこれを千古に傳ふべく、その忠誠は長く國民の模範とせねばならぬのであります。

本村有志諸君がさきに諸氏の英靈を慰めんがために、忠魂碑建立の議を企てますや、全村の賛同は翕然として集まりまして、僅か數ケ月を出でずして、こゝにこの竣工式を見るに至つた次第であります、これは實に諸君の盡忠至誠のいたすところでありまして、村民の敬仰また當然と申さねばなりません。

あゝ、嚴然たるこの忠魂碑は、一村敬慕の標的となりまして、長へに人心を訓化するであらふと思ひます。本日この竣工式の末席を汚すに當りまして、感慨まことに無量なるものが御座います。こゝに一言を呈して式辭といたします。

同　上（例其二、文書）

〇〇事變戰死者表忠碑竣工を告げ、本日を卜してこゝに式典を擧ぐ。不肖某その末席を汚し、式辭を述ぶるの光榮に浴し、感慨轉た切なるものあり。

惟ふに〇〇事變は、日清、日露の兩戰役の如き大戰役にあらざりしと雖も、世界列國妬視

の下に行はれたる最新科學戰にして、國家安危の岐るゝ處、寧ろ日清、日露の大戰役に優れるや言を俟たず。然るに皇軍の嚮ふ處、敵、敵し難く、常に連戰連勝、遂に敵軍をして和を我に乞はしむるに至り、我が武威更に全世界に宣揚せらる。帝國の光榮何ぞこれに過ぐるものあらんや。

これ偏に、陛下の御稜威のいたすところなりと雖も、而も亦忠勇義烈なる我が陸海將士の勇戰奮鬪の結果に外ならず、殊に一身を鴻毛の輕きに比して、國難に殉せる諸氏の絶大なる力の賜なりと言はざるべからず。

嗚呼偉なる哉諸氏の靈よ、生きては　陛下の股肱となりて國難に當り、死しては護國の鬼となりて皇基を泰山の安きに置く。洵にその功績は之を千古に傳ふべし、其の忠誠は長く國民の模範とせざるべからず。うべなるかな本村有志さきに諸氏の忠魂を慰めんが爲めに、表忠碑建立の議を企つるや、全村の協贊翕然として集まり、數ケ月を出でずしてこゝにこの竣

工を見るに至る。これ實に諸氏が盡忠至誠の致すところにして、全村民の協贊當然なりと言ふべし。

嗚呼仰ぎ見るこの嚴然たる表忠の碑、希くば地下の英靈、來りうけよ。諸氏の英靈は永遠に此の碑を廻りて一村敬慕の標的となり、長へに人心を訓化すべし。

一言以て式辭となす。

第十一章　名士の式祝辭例

內閣總理大臣式辭

海軍大將子爵　齋藤實閣下

昭和八年十一月十日日本青年館に開催されたる國民精神作興詔書渙發十周年記念祝典に於ける各大臣式祝辭、これぞ昭和青年諸君

の三讀自ら國民の範として各大臣の教訓を實踐躬行されん事を望む。

恭しく惟みるに大正十二年の今月今日國民精神の作興に關して、畏くも、聖詔を拜す爾來十年浮華放縱の弊と輕佻詭激の風とに至つては未た聖旨に副ひ得ざるものあるのみならず國民精神作興の切要なる寧ろ當時に幾倍するものあるを感ぜずんばあらず是の時に方り曩に國際聯盟脱退に際し更に畏くも優渥なる聖詔を拜す洵に恐懼に任へざるなり。

中央教化團體聯合會は國民精神作興の聖旨を普及徹底に創立せられ爾來會員諸君の熱烈なる努力と不斷の盡瘁とに依り能く教化施設の充實を來し以て今日の隆昌を致せり。

庶幾はくは本日の式典を機として更に陣容を整へ夙夜先帝の大訓を服膺し聖旨を奉體し益々力を國民精神の涵養振作に竭し以て擧國振張の實を擧げられむこと。

宮内大臣式辭

湯淺倉平閣下

本日をトして玆に中央教化團體聯合會が精神作興詔書渙發十周年記念式を催さるゝことは時局に鑑み適切なる企てゞあつて邦家の爲欣幸に堪へぬところであります。

曩に大正十二年渙發せられました精神作興の詔書は關東大震災に遭遇して人心動もすれば萎縮に傾かんとするに際しての大御心なりしが今日時運の變轉は更に詔書御趣旨の徹底を要し内外の情勢は愈々其の根本を精神の作興に俟つこととなりましたことは寔に恐懼に堪へないのであります。

此の秋に當つて本會は此の十周年記念を期して一面に於ては精神作興週間を企圖し廣く官民の協力に賴つて詔書の徹底に努め他面に於ては又各人各個の反省を促して上下一致の機會

を與へ以て擧國振張の實を擧げんとするは蓋し時宜を得たものであると信じます。

希くば諸賢に於て先づ躬を以て率先し本會の綱領に則り協同の本義を闡明し剛健の氣風を馴致し以て大いに國家精神を鼓吹し所期の目的を達成せんことを特に希望する次第であります。

内務大臣祝辭

男爵　山本達雄閣下

財團法人中央教化團體聯合會主催の下に茲に國民精神作興詔書渙發十周年記念式を擧行せらるゝに方り一言所懷を述ますことは私の欣幸とする所であります。

長くも　先帝陛下に於かせられましては深く世態の推移人心の歸嚮を軫念あらせられ大正十二年國民精神作興に關する大詔を下し給ひて國家興隆の道を昭示せられ國民をして嚮ふ所を知らしめ給ひしことは　聖慮宏遠洵に恐懼感激の至りに堪へぬ次第であります、爾來各地方共に只管　聖旨の對揚に努めつゝあるのでありますが本會に於きましては特に國民の教化善導に一段の力を致され年と共に其の實績を擧げつゝあるのでありまして邦家の爲慶賀に堪へませぬ。

申す迄もなく現下の我國は内外共に稀に見るの非常時に直面し擧國一致之が打開に邁進せねばならぬ秋であります、本會が大詔渙發十周年を迎ふるに方りまして特に國民精神作興週間を設定せられ非常時國民の精神を作興して自力更生の意氣を喚起し相率ゐて擧國振張の實を擧ぐるに努められんと致しますことは洵に機宜を得たる好擧と謂ふへく時難匡救に裨補する所極めて大なるものあるを信ずるのであります幸に此の機會に於きまして一層　聖旨奉體の切要なる所以を强調せられ國民の反省を促し其の嚮ふ所を一にして國難の打開に邁進せら

れんことを衷心より切望して已まぬ次第でありますことを以て祝辭と致します。

文部大臣祝辭

鳩山一郎閣下

大正天皇深く時弊を憂へさせられ畏くも　詔書を下して國民精神の涵養振作を望ませ結ひてより茲に十周年中央教化團體聯合會は記念すべき斯の歳斯の日を迎へて精神作興週間を設け克己日を定め更に感激を新にして　聖旨貫徹の一路に邁進せしむとす時局多難擧國振張の秋眞に警世の一巨鐘たりと謂ふべし。

抑々國民精神は建國以來歴世相承けて未だ嘗て失墜せず以て金甌無缺の國史を形成したる傳統的實にして實に我が帝國の生命なり之を涵養振作するの道は他なし、皇祖の、神勅、列聖の遺訓を體得して忠孝一本の信念を固め國史の精神祖先の餘烈を咀嚼して君國報効の意氣

を勵ますに在るのみ然りと雖も言ふは易く行ふは難し自ら難しとする所之れを他に求むるは更に難し是の故に善く人を導くものは先づ自ら省し己を責めて然る後淳々として之を他に求む是れ教化の眞髓なり、若し夫れ地信あり學識あり資力あるものは縱ひ事に教化に從はざるも其の一言一行は知らず識らず四隣に影響し一有力者の反省自覺は優に數十百人の改過遷善に値す此の意味に於て予は本會員諸君が不拔の信念と不撓の意氣とを以て率先協力國民精神の作興に心血を注がれむことを切望し世の有力者に對し躬行實踐範を世に示すの覺悟を以て力を時難の匡救に輸されむことを祈りて已まず。

茲に意義深き詔書渙發十週年記念の式典を擧げらるゝに臨み聊か平生の所感を披瀝し以て式辭となす。

帝國在郷軍人會館竣工につき時の陸海軍大臣祝辭

陸軍大臣　林銑十郎閣下

帝國在郷軍人會員修養の殿堂たる軍人會館竣工を告ぐ、輪奐の美、築構の壯、四隣に比なく、帝都中樞の地牛ケ淵に一偉觀を加へ寔に祝福に堪へざるなり。

曩に御卽位大禮の記念事業として本館の建設發意せらるゝや、三百萬會員翕然として其擧に贊同し、且つ全國有志の寄贈大に聚り、年幾何ならずして此の事業の大成を見る是れ實に我在郷軍人會員諸士氣脈能く相通じ、精神的團結鞏固なるの證左なると共に、又國民一般の我軍に對する熱愛の情深甚なるの表徵たり、洵に欣快に堪へず。

本會創設せられて玆に二十有餘年、其間會員能く一致協力、聖旨を奉體して良兵良民たるの修養を積み常に中道を謬らず犧牲奉公、能く其目的に邁進す、今や會勢日に旺にして、澎湃たる勢力は盤石の重きを成し、常に國民精神作興の先驅となり、時艱匡救の中核となる。

而して今や本館の竣成に依り、其中樞愈々定まり會礎益々鞏し。

本會館は是れ全會員の精神的結晶たり、而して其目的たるや會員相互の切磋琢磨、精神修養の道場となし、以て帝國在郷軍人會の發達を助成し、兼て國防思想の普及、及一般軍人並其關係者の便を圖らんとするに在り、大に之を用ひ、始めて其眞價を認め得べし。在京會員たると地方會員たるとを問はず。宜しく能く之を活用し此本旨を逸せざることに努むべきなり。

聊か蕪辭を述べて祝辭とす。

海軍大臣　大角岑生閣下

帝國在郷軍人會が曩に御大禮記念事業として帝都に軍人會館を建設して普く會員修養の道場團結の楔子とし更に心身の慰安所とするの計畫を樹てられ昭和七年三月、業務開始以來二

ケ年の日子と二百五十餘萬圓の建設費を以て鋭意建設に努力中のところ愈々今回芽出度く竣工を告げ、九段下靖國神社々頭に堂々たる一大會館の姿を見る至つたことは、無上の盛儀を永遠に記念すべき事業として極めて意義大なるものであり、慶賀措く能はざるところである

本會館の建設費は廣く全國に亘る在郷軍人會正會員の出金と、陸海軍現役軍人及一般よりの寄附金等に依つたものであつて、本事業がかく全國多數の協同事業であることを思ふ時更にその意義の一層深きものあるを覺ゆるのである將來本會館は會員の宿泊交驩等に大なる便益を與へるばかりでなく會員の親善並に切磋琢磨の機關となり軍人精神涵養の殿堂たるべきを信じて疑はぬ、而して本館がその使命を完うすることが出來るか否かは一に會員各位の努力の如何に依るものである。

現下時局の重大なるに際し意義深き本會館の竣工を機とし、協力一致邦家の爲め益々奮鬪られんことを祈る次第である。

模範演說例

内閣總理大臣海軍大將　岡田啓介閣下

諸君、内外時局極めて多事多難の秋に當りまして、不肖揣らずも大命を拜し、内閣を組織するに至りましたことは、寔に恐懼の至りに堪へぬ所であります、不肖固より菲才微力ではありますが、赤誠を披瀝し、各方面の協力を得て、内、國民康福の增進と、外、國際大義の顯揚とに努め、以て　聖明に應へ奉らんことを期して居る次第であります、今回災害對策等の爲め、臨時議會を開かるゝに當りまして、玆に初めて諸君と相見え、所信の大體を開陳し、諸君の御協力を仰ぐ機會を得ましたことは、私の最も光榮とする所であります。

施政の大綱に付きましては、曩に組閣の當初に於きまして、之を聲明し、以て一般の協力を期待致したのでありますが、之が具體化の爲には、十分なる審議を盡し、逐次實現に邁進す

る考でありまして、何れ通常議會に提案して御協賛を願ふことも少からぬことゝ思ひます。

近時各地に災害連りに相踵ぎ、多數の國民が艱苦窮乏に遭遇致しまして、之が救濟復舊の爲に、緊急施設を要すること極めて切なるものがあるのであります、組閣匆々、繭絲價の下落に依り、養蠶家窮乏の爲め、應急施設を講じましたが、其後關西北陸地方等に暴風水害甚しく、東北地方に冷害凶作慘を極め、其他隨所に旱害の生ずるあり、各方面に於ける損害著しく、應急の救濟復舊等を要するもの極めて多きに上つたのであります、此等の災害に際し長くも　天皇　皇后兩陛下には深く宸襟を惱ませられ、御救恤の思召を以て、內帑御下賜の御沙汰を拜し、又　皇太后陛下各宮家王公家よりも御下賜金の恩命に浴し、寔に恐懼感激に堪へぬ所であります、東北地方に對する　兩陛下の御下賜金は、之を基として備荒竝に隣保相扶の爲め、所謂鄉倉の普及を圖り、以て　聖旨に副ひ奉らんことを期して居ります、而して政府に於きましては、直ちに實行し得べき緊急施設にして、苟も災害對策上效果ありと認

めらるゝものに付きましては、既に著々之を實施致しましたが、更に是等の應急施設の中必要なるものを繼續すると共に、災害地方民更生の意氣を作興せしめ、將來の災害を防止輕減せんが爲め、禍を轉じて福と爲すべき諸種の恒久的災害對策を樹立致したいと思ふのでありまして、是等の爲め所要の經費を豫算に計上し、玆に臨時議會を開いて御協賛を願ふことゝ致した次第であります。

米穀對策に關しましては、米穀統制法の運用を根幹とし、米穀の統制に勉め來つたのでありますが、同法實施の經過、諸般の米穀事情及財政上の影響に顧み、更に考究を遂ぐるの要あるを認め、新に米穀對策調査會を設置し、目下愼重審議を重ねて居りまして、同調査會の答申を俟ち、成案を得るやう努力中であります。

此機會に於て更に附加へて申述べたきことは、海軍軍備制限會議對滿の問題と、關係機關調整の問題とであります。

來るべき海軍軍備制限會議に付ては、帝國政府は國防の安全を確保するを第一義とし、關係各國間に不脅威不侵略の原則を確立すると共に、軍縮の實を擧ぐる爲め、最も公正妥當なる方式に依り、其實現を期せんとするものでありまして、目下倫敦に於ての進行中豫備交渉に於ても、帝國代表は右方針を體し、鋭意善處中であります。

次に對滿關係機關調整の問題でありますが、滿洲事變前に於ける在滿帝國諸機關が事變後著しく變化した情勢に其儘卽せざるべきは論を俟たぬ所でありますから、曩に是等諸機關の圓滿なる連絡統制の爲め、其首腦には同一人之に當るの措置が講ぜられたのでありますけれども、其の後の經驗に徵し又滿洲國の發展に顧み、益々各機關の協力に依る機能の發揮を必要と致しますので、玆に滿洲國の獨立を尊重し、同國と我國との格別なる親善關係を考慮すると共に、對滿行政事務の統一を保持し、政府總掛りを以て滿洲國關係事項を處理し得る機構となすことを企圖致したのでありますが、而も現在の機構に急激なる變化を加へず治安工作を第一とする現實の事態に卽し、必要にして適切なる限度の機關の改革を行はんとするのであります、此對滿關係機關調整問題に關し、其過程に於て多少の紛糾のありましたことは甚だ遺憾とする所でありますが、既に調整案の根本趣旨は諒解せらるゝに從ひ、誤解や杞憂も自ら解消するに至り、各機關相協力して新機構の目的達成に邁進せんとしつゝあるのであります。

政府は以上申述べましたる災害對策に關する經費、其他此際緊急を要する若干の經費を豫算に計上致しましたが、之が財源は殆ど全部公債に求めざるを得なかつたことは、財政の現狀に照し止むを得ざる所であります、此支出の外、尙預金部よりも出來得る限り多額の低利資金を供給し、復舊復興を援助する方針であります、斯の如くして今回緊急なる豫算案及法律案を提出致した次第でありますから、何卒政府の意の在る所を諒とせられ宜しく御審議の上速に御協賛あらんことを切望致します。（拍手）

私は前回第六十五議會に於きまして、帝國の對外方針を開陳するの機會を得ましたが、其後内閣の更迭後に於きましても、引續き當時開陳致しました方針に從つて、外交案件の處理に當つて居る次第であります、其後に於ける我が對外關係に付き概觀致しますに、帝國の東亞に於ける地位は、漸次列强の理解認識を加ふるに至つて參りまして、歐米諸國及中華民國等との關係は、從て漸次親善を加へつゝありますことは、私の至極欣幸と致す所であります私は茲に前議會後に於ける帝國の外交上、重要なる二三の問題に付きまして、其經過を御報告致したいと思ひます。

先づ我が盟邦滿洲國が獨立國として健全なる發達を遂げますことは、聯盟脱退當時煥發せられました詔書に於て御垂示の通り帝國の根本的關心事でありますけれども、爾來同國に於きましては、内外の諸政愈々進み、本年三月には帝政が樹立せられ、國基が永遠に奠まるに至りましたことは、洵に慶祝に堪へませぬ、畏くも　天皇陛下には本年五月秩父宮殿下を滿洲國に御差遣遊ばされまして、慶賀の意を表せられ、日滿兩國の關係が愈々緊密の度を加へましたことは、吾人一同の感激措く能はざる所であります。

帝國と『ソビエト』聯邦との關係に付きましては、前議會に於て御報告致しました以來、稍々良好に向ひつゝある次第でありまして、北洋漁業の如きも、本年は平穏裡に事業を遂行することを得ましたことは、兩國交の爲に慶賀すべきことであります、又北滿鐵道の讓渡交渉は、本年初頃一時停頓の狀態に在りましたが、其後三月頃から再び交渉が開始されました、然るに其後更に幾度か難關に逢著致しましたが、其間帝國政府は十分仲介斡旋の勞を執りまして今日では代償額其他讓渡に關しまする重要條件の大部分に付ては、既に意見の一致を見

て居るのであります、唯目下の所三四の手續問題付きまして、未解決の狀態に在るのでありますが、是等は非常に細目の點に亘つて居りますので、其解決迄には尙ほ多少の時日を要する次第でありますが、成べく速に交渉の成立を見んことを期待致して居ります。

目下倫敦に於きまして開催中の海軍軍縮豫備交渉は、御承知の通り主として日英米の三大海軍國の間に行はれて居りまして、是は實質に於て極めて重要なる交渉として、其成行は帝國の大に注視致して居る所であります、英吉利政府より海軍軍縮會議を容易ならしむる爲に倫敦に於て、關係國間に個別的に豫備交渉を行ひたいと云ふ希望の申出がありましたのは、本年の五月十七日であります、が帝國政府に於きましては、右豫備交渉の開催を適當と認めまして之に同意を致すことに通報致しました、結局六月の十八日以來、倫敦に於きまして、關係國間に交渉の開始を見るに至つたのであります、大體最初は明年開催せらぺき會議の手續問題に付き、意見の交換を行つたのでありますが、十月から再開の交渉に於きましては、日

英米の三國間に、軍縮の實質問題に關する交渉が行はれつゝあるのであります、右交渉に當りまして、帝國は我が國防の安固に十分なる兵力量の保有を期すると共に、不脅威、不侵略の原則を確立せんとするものでありまして、帝國は從來の比率主義を廢し、關係國間に兵力量の共通最大限度を設くることを主張して居るのであります、而して又帝國は軍縮の精神を發揮する爲に、極力軍備の縮減を圖り、以て將來成べく國民負擔の緩和に資せんとするものでありまして、是が協定に當りましては、其共通の限度を成べく低くするように致しますと共に攻擊的の兵力は、是が縮減にも異存なく、防禦的兵力は之を整備し、以て各國をして攻むるに難く、守るに不安なからしめんとするのであります、而して帝國代表に於きましては右の方針を體しまして、我が主張の貫徹を圖ると共に、合理的なる新條約の妥結をするやう極力努力を續けて居る次第でありまして、帝國に於きましては英米其他關係國に於て、我が主張の公正妥當なるを了解しまして、新たなる軍縮協定の成立を見るやうに致しまして之に

依つて世界的平和の基礎が更に確保増進せられんことを希望致して居るのであります、尚ほ豫備交渉の經過は公表せないことゝなつて居りますので、只今の所之を詳細に申上げることは出來ませぬが、何れ他日更に申上げる機會のあらんことを期待致して居るのであります。

次に對外通商關係に付きまして、主なる案件の經過を申述べます、英領印度との通商交渉は御承知の通り本年一月、日印代表者間に大體實質的の意見が一致を見まして、其後印度側より二三重要なる原則的の問題が提起せられました爲に、交渉が姑く滯滯致して居りましたが、漸く四月の十九日に至りまして、兩代表間に條約案の假調印を行ふことゝなりました、其後日英兩國政府間で、日印通商條約及附屬議定書に正式調印を濟ませまして、雙方の批准を經て本年の九月十四日より實施せられて居るのでります、爾來今日までの實績に徴しますれば、本條約の運用は洵に順調に行はれ、大局に於て日印貿易は滿足なる發展を續けつゝあることは、兩國の爲め極めて悅ぶべきことゝ存ずるのであります。

終りに目下『バタヴィア』に於て開催中の日蘭會商に付て申しますが、實は近年に於ける和蘭本國及蘭領印度の貿易不況及日本の對蘭印輸出貿易の激增に鑑みまして、本年一月に和蘭政府から是が調節の爲に、現行日蘭通商條約の補足的協定を作りたいと云ふ爲に、會商の開催方の申出があつたのであります、此會商に於きましては、我が代表部諸員は、先方代表部との間に既にもう六ケ月に亘り各種の問題を討議しまして、是が妥結に努力は致して參りましたが、何分にも問題が極めて複雜且つ多岐に亘つて居ります關係上、今日迄未だ十分雙方の意見の合致する所まで至つては居りませぬ、併し帝國政府と致しましては、終始公正妥當なる主張を以て之に臨みまして、先方の提案で能く兩國の利益に合致し且つ其實現の可能性なるものに限りましては、十分之を此方でも考慮しまして、何等か妥結の途を求めんと努めて居る次第であります、本會商は近き將來に於て滿足なる結果を見るに至りまして、日蘭兩國の親善關係增進に寄與することの出來るやうに希望致して居るのであります。

以上申上げましたことは、何れも最近に於ける帝國外交上の重要案件でありまして、現に進行中の各案件が、何れも圓滿なる妥結に達しまして、關係各國との和親の増加に資し、以て一般國際狀勢の、安定に一層の貢献を致したいことを期して居るのでありますが、目下内外の時局中々重大の折柄我が外交方針の遂行に付きましては、眞に擧國一致朝野各方面の御協力を衷心より翹望して止まない次第であります。（拍手）

大藏大臣　高橋是清閣下

諸君、玆に昭和九年度追加豫算の大要を説明致しますことは私の最も光榮とする所であります。

今年は不幸にも國内各地に災害が相踵いで起りまして、北陸地方の水害、九州及四國地方の旱害、東北地方の冷害、朝鮮に於ける風水害等孰れも地方農村に多大の損害を與へましたのみならず、關西地方を襲ひました風水害に因る都市農村の被害は頗る劇甚を極め、災害は殆ど全國に亘つた觀がありまして、罹災地方民の疲弊困憊は實に見るに忍びざるものがあります、之に加ふるに繭價の下落等に因る養蠶地方の窮狀も亦甚しきものがありますので、政府は是等災害地等の復舊救濟其他の對策に要する諸經費に付き、提案することゝ致した次第であります。

而して是等災害等の對策の爲に要する臨時經費の總額は、一般會計に於ては二億千百餘萬圓でありまして、其大部分は昭和九年度及同十年度に於て之を支出し、災害復舊の長期に亘る等に付ては、昭和十一年度以降に於ても繼續支出する計畫であります、即ち今回提出しました昭和九年度追加豫算に於ては、七千六十餘萬圓を計上しましたが、更に昭和十年度に於ては六千五百十餘萬圓、昭和十一年度以降に於ては、七千五百四十餘萬圓を支出せんとするものであります。

今右の臨時經費の總額に付き大要を説明致しますれば、内務省所管に於ける災害土木費補助

三千七百三十餘萬圓、治水事業費二千五百十餘萬圓、大阪港復興修築費の補助千九十餘萬圓農村其他應急土木事業費二千七百七十餘萬圓、鄉倉奬勵費百六十餘萬圓、災害土木助成費其他千三百九十餘萬圓、合計一億千六百九十餘萬圓、農林省所管に於ける風水害等の復舊諸施設費が三千七百餘萬圓、災害地方諸施設費二千百六十餘萬圓、養蠶地方諸施設費が九百六十餘萬圓、合計六千八百三十餘萬圓、文部省所管に於て風水害罹災市町村立小學校復舊建築費借入金元利補給八百三十餘萬圓、災害地方其他市町村立尋常小學校費臨時補助三百萬圓、こ害地方其他學齡兒童就學臨時奬勵費九十餘萬圓、颱風對應並に寒冷觀測施設其他四百三十餘萬圓、合計六千五十餘萬圓が其主なるものでありまして、此外に大藏省、陸軍省、海軍省、司法省、商工省及遞信省所管に於て合計九百四十餘萬圓がありますが、是は主として是等各省に於ける廳舍其他風水害復舊費等であります。

尙ほ特別會計に於ても災害地方の救濟等に寄與すると風水害に因る應急及復舊諸施設等を行ふ爲め、通信事業特別會計資本勘定に於で三百餘萬圓、同じく業務勘定に於て百四十餘萬圓、帝國鐵道特別會計資本勘定に於て四百六十餘萬圓、朝鮮總督府特別會計に於て千二十餘萬圓、之を九年度以降に於て支出する豫定であります。

次に今回提出致しました昭和九年度追加豫算に付て說明を致します、昭和九年度一般會計追加豫算は主として前に述べました災害對策に關する臨時經費中昭和九年度中に支出を要する分でありまして其の金額は內務省所管三千八百九十餘萬圓、農林省所管二千四百餘萬圓、文部省所管二百餘萬圓及大藏省、陸軍省、海軍省、司法省、商工省並に遞信省所管に於て合計五百六十餘萬圓でありまして、是が總計は七千六十餘萬圓であります、右の災害關係經費の外、本追加豫算には外務省所管に於て日蘭通商會議委員派遣費十八萬七千圓、大藏省所管に於て對滿事務局新設に關する經費六萬餘圓、是等が計上致してありますが、右は何れも緊急已むを得ざる經費であります、而して是が財源は歲出に伴ふ普通歲入百八萬餘圓を除き

て他は全部公債財源依る豫定であります。

次に特別會計に於きましても、應急及復舊施設費に關して、通信事業特別會計資本勘定に於て七十三萬餘圓、同じく業務勘定に於きまして百四十餘萬圓、帝國鐵道特別會計資本勘定に於て三百十餘萬圓、朝鮮總督府特別會計に於て四百三十餘萬圓をそれ〳〵計上致してあります、而して其財源は通信事業に於ては本年度歳入金の增加、帝國鐵道に於ては前年度持越資金、朝鮮總督府に於ては主として前年度剩餘金繰入に依ることゝ致しました、尙ほ此際一般並に各特別會計を通じ、繼續費又は豫算外國庫の負擔に屬する契約の御協贊を經ることを要するものは、それ〳〵其提案を致しました。

災害地方等の復舊其他の對策に付ては以上の如く豫算に計上致しまする國費の支出の外罹災者に對する租稅の減免並に徵收猶豫の途を拓くことゝし、別途法律案を提出することゝ致しましたのみならず、預金部よりも出來る限り多額の低利資金を供給し、其復舊復興を援助

する方針であります、即ち罹災各地に於ける小學校其他の公共施設の復舊事業費罹災者の復舊資金及旱害冷害地方等に於ける農村其他應急土木事業等に付ては國庫の助成に依るの外資金の借入を必要とする者に對しては其負擔の輕減を圖る爲め預金部資金を融通する計畫であります、尙ほ地方公共團體各種組合及災罹者の災害復舊に關する事業等にして國庫の助成なきものに對しても同樣預金部資金を融通して是が復舊を援助する計畫でありますが、是等融通豫定の金額は總額約二億圓でありまして內昭和九年度分は九千六百餘萬圓であります、罹災地方於ける中小商工業復興の爲にも政府に於て特別の施設を爲すの必要ありと認め是等地方に於ける中小商工業者に對し金融機關が貸付を爲し之に依り損失を受けたるに對し、道府縣又は市が損失補償を爲したるときは、國庫は道府縣又は市の區域內に於ける貸付金總額の十分の二を限度とし、總額七百萬圓を限り道府縣又は市に對し、其補償額の二分の一以內の金額を補給することを得る制度を設けんとするのでありまして、之に依つて銀行等の罹災地

中小商工業者の貸付利率を低下せしむることを得るものと考へます、右補償制度に依て金融機關の貸出し得る金額は三千五百萬圓となるのでありまして本制度は銀行等の自己資金に依る貸付にも適用せらるゝのでありますが、預金部としては特に條件を緩和したる資金を供給することゝし差當り千五百萬圓の融通を決定致しました。

以上の如く政府は今回の豫算案に基く國費支出竝に預金部資金の融通等に依り是等罹災地の復舊復興竝に救濟に關し、最善を竭す考でありますが、國民各自に於ても此際出來得る限り將來に於ける災禍を未然に防遏するの計を樹つると共に避くべからざる天災の場合に於ても成べく其損害を少からしむるの用意を怠らず、以て今回の災害が敎へました各種の經驗を永く善用し、即ち禍を轉じて福となすの實を擧ぐるの必要があると信ずるのであります。

終りに臨み本豫算案に對し何卒協贊を與へられんことを希望致します。（拍手）　終

昭和十年七月二十五日印刷
昭和十年八月一日發行

【定價一部參拾錢】
（送料實費增）

復製不許

編輯人　東京市芝區君塚町十八番地　森本富藏

發行兼印刷人　東京市芝區君塚町十八番地　森本イシ

印刷所　東京市芝區西久保廣町卅六番地　陸軍壯丁敎育會印刷所

發行所　東京市芝區君塚町十八番地
陸軍壯丁敎育會
電話高輪五八三番
振替東京參七九九番

新刊

陸軍教導學校入學案内

◇小學卒業者、現役志願者、徴兵入營者が將校となる唯一の機關は、先づ陸軍教導學校に入學する事である。高等小學校程度で、何人も入學出來、本校卒業者は、やがて榮ある將校に累進する事が出來る。本書は、志願の方法、入學の手續や、學科試驗問題等を、詳しく書いたもの、本校志願者は先づ一冊を座右に備へよ。

ポケット型新裝
定價六十六錢
（送料共）
前金注文の事

ペン習字兼用

模範軍人手紙文集

◇入營軍人諸君に最適の各文例等種々の文章類句を集めたのが本書である。これさへあれば思ふ手紙がスラ〳〵と書ける。

◇他にペン習字手本の兼用になつて居るから、ペン字を上手に書きたい人には最もよき手本となるから一舉兩得の模範軍人手紙文集である。

最新版中型
美裝約二百頁壹部
定價六十六錢
（送料共）
前金注文の事
代引十五錢增

東京市芝區君塚町十八番地（高輪御所脇）
陸軍壯丁教育會出版部
振替東京參七九九番　電話高輪五八三番

◇納金制度は廢され、誰でも志願が出來る！

最新刊

志願より除隊まで 幹部候補生案内

◇是まで二百圓乃至二百四十圓を政府に納金を要した幹部候補生志願は、全然納金制度は廢せられ、有資格者は、何人でも志願出來る樣になつた。

◇男子召されて、皇軍に入り、畏くも大元帥陛下の股肱として忠節を盡すは、國民として至上の光榮である。同じ入隊するならば、國軍の幹部として、御奉公さるゝやう、幹部候補生志願をお奬めする次第である。

◇本書は、右の新制幹部候補生志願手續きより、入隊中の勤務情態合格不合格甲種乙種の區分、採用後の階級、及び終末試驗等につき、志願より除隊までの事柄一切を詳述せしものであるから、幹部候補生を志願せし人、これから志願する人には必携の良書であるから今直に下記御申込の上用意をなし萬遺漏なきを期せられよ。

四六版
新裝中型
定價
六十六錢
（送料共）
前金注文の事
代金引換注文は十五錢增

東京市芝區君塚町十八番地（高輪御所脇）
陸軍壯丁教育會出版部
振替東京三七九九番　電話高輪五八三番

小學卒業者の將校になる唯一の近道!!

新刊

陸軍現役下士官志願案内

各兵科

附、上等兵に早くなるには

四六版
中形美裝
定價壹部
六十六錢
前金送料共
十代金引換は
十五錢增

◇小學、中學、專門學校、大學と、惠まれた家庭に育ち新時代の教育を受けた人は別として、小學卒業と同時に家事に親しみ、滿十七歳となりて令第七條によ〻現役志願をする人、或は適齢檢査で合格入營する人が榮ある陸軍將校に昇進するには、先づ現役下士志願をなし、下士官となり順次昇進するが唯一の方法である。勿論入營後陸軍の各種學校へ入學も出來るし、本人の精勵次第で將來陸軍々人として、立身榮達も必らず出來るのである。

◇本書は志願手續はどうしたらよいか、學歴、資格、採用、給料、何年で何々に進級するか最後の榮冠たる將校になるにはどんな方法で進むか、何年を要するか等を詳しく、わかり易く說明せしものである。又普通に除隊する人にも早く上等兵になる要項を示しあれば入營者には無二の良師友である。

東京市芝區君塚町十八番地(高輪御所脇)
陸軍壯丁教育會出版部
振替東京參七九九番 電話高輪五八三番

入營者は先づ各聯隊の輝く歴史を見よ!!

陸軍省及
全國聯隊
賛助編纂

皇軍聯隊旗寫眞帖

入營者用普及版
一部壹圓貳拾錢
小包送料十八錢
前金御注文を乞

□帝國陸軍創設以來六十年、未だかつて編纂されざりし、全國十七ケ師團、九十有五聯隊の輝く軍旗御寫眞、及び尊き歴史を各聯隊より御寫眞並に史料の御貨下を受け編輯せしものなり。

□軍旗の神嚴なるは今更解說の要なし、諸君! 苟しくも帝國軍人を志望される諸君は、先づ本書一部を書齋に奉じて、神武八紘に輝く皇軍各聯隊の各軍旗御寫眞を拜して、愈々報國盡忠の鐵心を堅め皇軍に入るの準備をせられよ

東京市芝區君塚町十八番地(高輪御所脇)
陸軍壯丁教育會出版部
振替東京參七九九番 電話高輪五八三番

青少年あこがれの「陸軍將校」になる途は開かれたり

一日早く本會に入會せば
一日早く將校に進む日近づくべし

愛國青年必讀

陸軍入營準備將校志願講義錄

會費一ヶ月七十五錢
四月全期分二圓九十錢
入會希望者は振替にて會費拂込を乞ふ
十大特典あり詳細は第一號に發表

□今や大滿洲國建設成り國運隆昌、皇威は世界に冠たるのとき、帝國陸軍の責務愈々加重、前年度よりは空前の大豫算を以て、非常時陸軍の大擴充を發表さる

□一般徴募兵も平年より、一萬數千名を增徴し、萬遺漏なきを期し、皇國百年の大計を樹立さる。兵の增員と共に、これを指揮する、下士官、將校の大增員も又必然にして、陸軍志願者には絶好の機會也。進んで陸軍に入り陸軍將校として、光輝ある立身を望まるゝ有爲の青年は先づ本講義によりて、その進路を定めて初志を貫徹さるべし。

□昭和二年勅令の改正によりて一兵卒よりどし〳〵將校に昇進出來る。

□本講義は右の如く陸軍で立身せんと望む方には他に類例なき本邦唯一の最良講義錄である。

東京市芝區君塚町十八番地（高輪御所脇）
陸軍壯丁教育會出版部
振替東京參七九九番　電話高輪五八三番